

Ⅱ 全学FD講演会・研修会

1 講演会・研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD講演会：「アフターコロナのICT教育」

－responを活用して全学生参加型の双方向授業をつくる－

講師：株式会社レスポ 代表取締役社長 森田 真基 氏

大妻女子大学 人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 八城 薫 教授

人間関係学部 人間福祉学科 山本 真知子 准教授

社会情報学部 情報デザイン専攻 宮崎 美智子 准教授

文学部 コミュニケーション文化学科 竹部 成崇 専任講師

日時：令和5年7月28日（金）16:30～18:00 Zoomによるオンライン開催

主催：大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

令和5年度前期 F D 講演会

アフターコロナの ICT教育

－responを活用して
全学生参加型の双方向授業をつくる－

開催方法
Zoom

令和4年度以降、本学の対面授業は全体の8割まで戻っていますが、コロナ禍のオンライン授業期間中に使用していたアクティブ・ラーニングツールは、対面授業においてどのように活用できるでしょうか。本学の教育支援ツールのうち、リアルタイムアンケート・出席確認・チャットの機能を持つresponに焦点を当て、双方向性のある【全学生参加型授業】に変えるための機能および授業活用事例を紹介します。

【responとは】
授業中に活用できる教育支援ツールで、本学ではmanabaと連携しています。教員からの質問に対して、学生がスマホを使って回答や意見を送信することで、リアルタイムに回答結果や他学生の意見などを閲覧できます。各機能は、日時を指定することにより、授業時間外の質問受付や、オンデマンド授業での活用等も可能です。

日時 7月28日（金）16:30～18:00

講師 respon 機能の狙いと最新情報
森田真基氏（株式会社レスポ 代表取締役社長）

本学授業での活用事例

八城 薫先生（人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 教授）
山本 真知子先生（人間関係学部 人間福祉学科 准教授）
宮崎 美智子先生（社会情報学部 情報デザイン専攻 准教授）
竹部 成崇先生（文学部 コミュニケーション文化学科 専任講師）

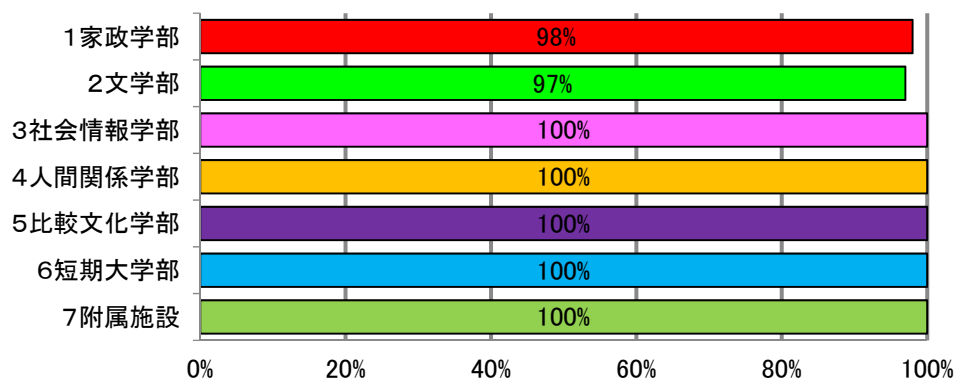
FD 講演会アンケート集計結果

- ＜ テ ー マ ＞ アフターコロナの ICT 教育
 ーrespon を活用して全学生参加型の双方向授業をつくるー
- ＜ 講 師 ＞ 前半: 本学授業での活用事例
 八城 薫先生(人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 教授)
 山本 真知子先生(人間関係学部 人間福祉学科 准教授)
 宮崎 美智子先生(社会情報学部 情報デザイン専攻 准教授)
 竹部 成崇先生(文学部 コミュニケーション文化学科 専任講師)
 後半: respon 機能の狙いと最新情報
 森田 真基氏(株式会社レスポ 代表取締役社長)
- ＜開催方法＞ Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
- ＜開催日時＞ 令和5年7月28日(金) 16:30～18:00
- ＜録画配信＞ 令和5年8月2日(水)～公開中
- ＜回答期間＞ ①令和5年7月28日(金)～9月11日(月) 23:59
 ②令和5年9月19日(火)～9月25日(月) 23:59 (専任教員未回答者対象)
- ＜未回答者＞ (専任教員) 家政学部1人
 (研修等除く)

【参加者(アンケート回答者)の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	23 人	42 人	65 人	66 人
2 文学部	10 人	27 人	37 人	38 人
3 社会情報学部	18 人	18 人	36 人	36 人
4 人間関係学部	22 人	12 人	34 人	34 人
5 比較文化学部	12 人	9 人	21 人	21 人
6 短期大学部	13 人	11 人	24 人	24 人
7 附属施設	4 人	15 人	19 人	19 人
8 非常勤講師	12 人	78 人	90 人	
9 助手	3 人	13 人	16 人	
10 事務職員	1 人	1 人	2 人	
合 計	118 人	226 人	344 人	

【所属別参加率】(専任教員)

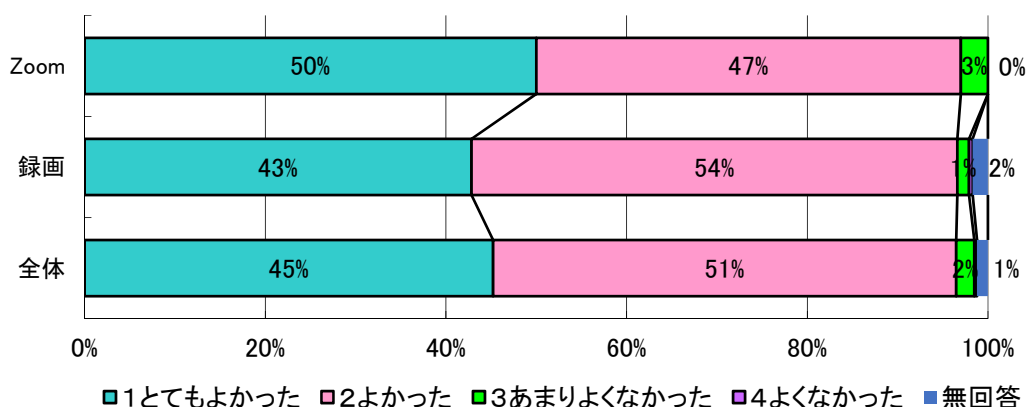


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 344 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

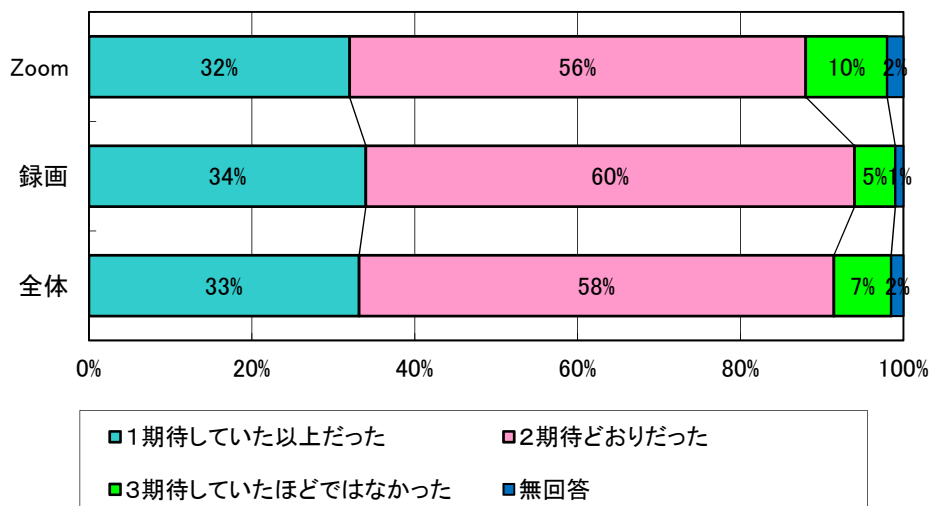
（１）講師について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とてもよかった	59 (50%)	97 (43%)	156 (45%)
2 よかった	55 (47%)	121 (54%)	176 (51%)
3 あまりよくなかった	4 (3%)	3 (1%)	7 (2%)
4 よくなかった	0 (0%)	1 (0%)	1 (0%)
無回答	0 (0%)	4 (2%)	4 (1%)



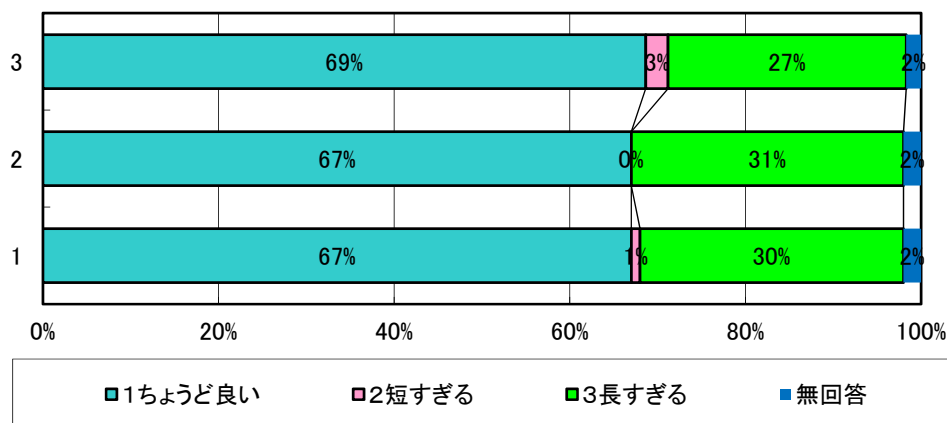
（２）内容について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 期待していた以上だった	38 (32%)	76 (34%)	114 (33%)
2 期待どおりだった	66 (56%)	135 (60%)	201 (58%)
3 期待していたほどではなかった	12 (10%)	12 (5%)	24 (7%)
4 期待はずれだった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
無回答	2 (2%)	3 (1%)	5 (2%)



(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	81 (69%)	151 (67%)	232 (67%)
2 短すぎる	3 (3%)	1 (0%)	4 (1%)
3 長すぎる	32 (27%)	70 (31%)	102 (30%)
無回答	2 (2%)	4 (2%)	6 (2%)



(4) 今後希望される講演テーマについて (複数選択可)

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	72 (21%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	86 (25%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	100 (29%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	133 (39%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	84 (24%)
6 初年次学生の教育支援	70 (20%)
7 配慮が必要な学生の修学支援	129 (38%)
8 キャリア教育・進路指導	72 (21%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・manaba についても聞いてみたくまりました。
- ・今後も提供いただける情報を参考にしながら授業内容を見直していきたいと思います。
- ・今回のように授業や学生指導に効果的なことを教えていただく機会があると大変参考になります。
- ・ICT の活用として、respon のドロップアウト通知機能は非常に有益だと感じた。一方で、UNIPA での情報や respon など連携できたり、教員の方で出席状況・参加に関してだけでもよいので、できるだけ横断的に確認できるようになると、非常にありがたいです。教育支援・学事 G と教員との連携の在り方や教員（特に担任・ゼミ担当）の学生の学業情報（出席や参加率）に関するアクセスのしやすさなど、より包括的有機的な展開のしやすさなどに関する研修・事例の紹介があると非常にありがたいです。
- ・教育体制とも関係すると思いますが、オンライン授業の有効性について個人差が非常に大きいように感じています。どのように効果的に活用していくか、大学としての動向に関する情報を期待します。
- ・学生達がこれまでの期間で何を学び、何を知っているのかを把握し難く、授業内容に無駄が多くなってしまいう傾向があると感じています。関連する授業の内容を把握することができると、効率良く要点を絞って授業運営ができるのではないかと思います。シラバスだけでは把握し難いので、例えば授業見学（オンデマンドを視聴）等の可否もご検討いただけると幸いです。

[国の高等教育・教育改革の動向、本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・これからの少子化時代にあたり教育改革、改組等迫られると思いますが、大学設置基準、補助金のしくみなど教職員が理解しておくことは重要かと思ひます。
- ・国の高等教育・教育改革の動向に、本学の教育体制・教育改善をどのように対応させるのか（本学の特徴）を考えておくことが急務かと思われる。

- ・学科などでどのような教育方針なのか、就職支援に力を入れたいなど方針がわかるような講義やディスカッションができる場を設けてほしい。
- ・今回のように授業や学生指導に効果的なことを教えていただく機会があると大変参考になります。
- ・教育体制とも関係すると思いますが、オンライン授業の有効性について個人差が非常に大きいように感じています。どのように効果的に活用していくか、大学としての動向に関する情報を期待します。
- ・少子化による学生数の確保が難しい現代において、本学の教育体制やカリキュラムの大幅な見直しが喫緊の課題だと思います。受講生の非常に少ない授業の見直しなど、学生にとって求められる授業のあり方を検討していくことが必要と思っています。
- ・教育体制とも関係すると思いますが、オンライン授業の有効性について個人差が非常に大きいように感じています。どのように効果的に活用していくか、大学としての動向に関する情報を期待します。

[授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介]

- ・CahtGPT について
- ・生成 AI で語学教育が大きく変わるといいますので、今後の語学教育のありかたについて
- ・学部を超える授業（科目）の可能性について。
- ・卒業論文指導について。大妻では、すべての学科で卒論は必修だと思われます。最近、一部の教員から卒論を選択制にしているかどうかの意見が出ています。理由は、教員の負担が過重だからです。私たちは、自学科の指導しか知りません。他学科ではどのような指導をしているのか。教員の負担軽減を図りつつも、優れた指導事例があったら、そこから学ばせていただきたいと思っています。
- ・学生主体の授業が求められています。これは技術的な問題というより、教員の意識の問題になるのではないのでしょうか。アメリカの大学は、この意識転換に成功して復活しました。この問題にいつかは取り組まねばならないかと思っています。
- ・授業や学生指導に直接役立つ内容のほか、本学の改革に貢献するための情報も得られると有意義だと思います。
- ・企業、工場見学、博物館など学外施設を利用した授業補助の事例紹介
- ・他の先生方の授業開発やアイデア、そして工夫なども参考になるといいます。

[初年次学生の教育支援]

- ・高校の教育内容や進路指導
- ・偏差値を高める入試問題作成のあり方。FD とは直接関係しませんが、質の良い授業は質の高い学生の確保が必要と思われます。
- ・学生の自立や成長を見守る方法を模索しております。
- ・現在の大学生を中心とする「Z 世代」の特性。5 年前の学生とは気質が異なり、指導に難しさを感じているため。 どのような点に注意すべきか、専門家の意見を聞いてみたい。 上記と関連して、SNS 世代の学生の対面コミュニケーション能力を向上させるにはどうすれば良いかも、日々悩みの種である。
- ・1 年ゼミや2 年ゼミで何をすべきなのか、いまひとつよくわからないので事例紹介をしてほしいです。個人的な希望ですが、私が所属する学科は教員の専門性が多様で、学科共通の「基礎として学習すべきこと」がないせいで余計に困っているので、そういった「ごった煮」の学科の先生の事例をお伺いしたいです。
- ・受講態度や学習姿勢に問題のある学生に対する指導・支援のあり方
- ・学生の自立や成長を見守る方法を模索しております。

[配慮が必要な学生の修学支援]

- ・海外での例なども含めて、多様な対応事例を聞いてみたい。
- ・AI の自動生成の課題利用をどのように指導するか
- ・配慮の分野も多岐にわたり、対応に迷うときもあります。真摯に公平に学生さんに接するためにもぜひ勉強したいと存じます。よろしくお願いします。
- ・今後、増加してくると考えられる配慮が必要な学生について、例えば本学の相談室のカウンセラーの先生方から具体例などをお示しいただきながらアドバイスをいただきたい。
- ・実習講義のため、配慮が必要な学生を受け入れることが難しいと感じております。どのような判断基準で成績を判定されたり、履修を支援しているのか知りたいと思っています。
- ・受講態度や学習姿勢に問題のある学生に対する指導・支援のあり方

[キャリア教育・進路指導]

- ・キャリア教育の動向 学生の将来への志向を高める大学におけるキャリア教育の在り方
- ・(オンデマンド授業でしたので、授業内容のほかに、近況などのコメントを respon で共有していました) そのとき、学生のコメントで多いのが、就職活動への不安でしたので、テーマに選びます。

【その他】

- ・学生の実態に即した教育方法の工夫・開発に関する講座 ・かつての大学生とは様変わりした学生の動向（学習意欲、学びへのきっかけ、出席・単位について価値観、読書や仲間との議論などキャンパス外での学びの状況など）を理解するための講座 ・適度なアカデミックプレスを組織として加えていくための工夫についての講座 ・同一学科の中でも所属学生の基礎学力に大きな差があることを前提に、教員はどのように対応することが公平であるかを考えさせる講座 ・この学力格差は3年次にも変わっていないというALCSの結果を覆すための工夫のヒントとなるような講座
- ・一授業で使える映像の著作権関連（ネットフリックスはダメかどうか） 一夫妻女子大学で使える教室の類型（口字の教室の有無）や機材の類型
- ・選択肢にあるテーマとも関連しますが、ダイバーシティが重視されるなか、トランスジェンダー（MtF）学生への対応を取り上げてみてはいかがでしょうか。たとえば、お茶の水女子や奈良女子、宮城学院女子、東京女子、日本女子、津田塾等はトランスジェンダー学生の受入れを開始あるいは受入れ方針を決定しています。こうした流れはSDGsの理念「誰一人取り残さない、持続可能な社会」と重なります。ただし、アドミッションポリシーとの関係もありますので、取り上げるにはハードルが高いかもしれません。また、在学生のなかにも一定数の割合でFtMの学生がいると推察されますので、人権保障の観点から、どのような対応とコミュニケーションが求められるかについてコンセンサスを得ることも重要と思われます。
- ・そろそろ対面でも実施可能なのかなと思いますので、学部や部署をこえて教職員が「これ、どうしてますか？うちではこうしているんですが…」という話というワークショップっぽいものができるといいなと思っています。あるいは、カリキュラム改定のあおりか何か分かりませんが、所謂「静かな退職」っぽいスタッフが少なからず見受けられるので、教職員それぞれに学生に対してサービスを提供しているという意識が高まるような企画もありがたいです。
- ・本件とは関係ありませんが、YouTubeの再生時にCMが流れます（動画冒頭）。YouTubeチャンネルの設定でCMが流れないようにしたほうがよいと思います。

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・respon を使っておられる先生のお話を聴かしていただきましたが、学生が楽しみながら興味を持って受講でき、尚且リアルタイムで他者のいろいろな意見に触れることができる授業展開に、正直驚いております。私も少しずつresponの使い方を学生を惹きつけられる授業について考えていきたいです。
- ・教員と学生とが双方向の授業を進めるうえで参考になりました。取り入れることで寝る学生はいないかと感じました。
- ・responの効果をよく理解できました。是非様々な場面で使用し、学生の授業参加意識を高めていきたいと思います。
- ・これまで、出席機能のようなものとぼんやり考えていたresponの活用法を知ることができ、そのまま後期の授業に反映することができています。来年度からオンデマンドから対面に切り替わる授業が増えるため、このタイミングでの事例紹介はとてもありがたかったです。
- ・森田社長の講演内容が、ICT教育の面、特に双方向からの参加型という面で、今後の教育活動に役立ちました。今回は、家政学部以外の分野のお話がたっぷりと拝聴出来たので、良かったと思います。このような機会を計画していただきまして有り難うございます。今後とも興味深いご計画をお願いします。
- ・森田真基氏の話し方が柔らかく、聴きやすいと思いました。
- ・この機能は、教員、学生共にメリットがあり双方向のコミュニケーションを行うには大変有効であると感じました。
- ・responの機能を色々御紹介頂き有難うございました。何らかの形でこちらの授業に活かされればと思います。
- ・responの使用事例について、沢山の学びがありました。
- ・responを今まで使用したことがなかったが、使用例を聞き、使用してみようと思った。
- ・これまでレスポンス機能を活用していませんでしたが、ぜひ使用したいと思いました。
- ・ルームの機能をまだ使ったことがなかったので、今後使ってみたいと思いました。
- ・responは普段からある程度は使用していますが、具体的な事例説明が多かったので、参考になりました。
- ・後期の授業にむけて、大変、参考になった。
- ・今後のレスポンスの利用に関してある程度参考になった。
- ・respon やその他のサービスの活用法のみならず、学生のニーズとそれに対応するための工夫や注意点について、詳しく知ることができ、大変勉強になりました。
- ・レスポンスについて、3名の教員の対面授業での使用と、1名のオンデマンド授業での使用の報告で、多面的な使い方の詳細が良く理解できた。また森田氏の懇切な機能紹介も、開発者の話を聴く機会として貴重で、思わずメモを取り再度（3回見直した場面もあり）映像を確認するなどして収穫があった。
- ・これまでresponの機能を使用することがなかったが、使用例を知ることができ、試してみようと思った。manabaよりも即時性が高い点が学生にとっても有効と思う。対面授業ではライブ感が重要と感じているので、後期の授業での使用を検討したいと思った。多くの使用例を知ることが、興味深く、有効であった。

- ・先生方のご発表では、具体的な事例を拝見し、このような授業を実施すると、きっと学生は授業に引きつけられるであろうという感想を抱いた。respon の森田社長のプレゼンも、入力画面を示して実際の操作を再現するなど、わかりやすい説明でありがたかった。一方で、最後の山倉先生のコメントにもつながるが、慣れている（若い）先生や学生には非常に魅力的なツールではあるが、慣れない教員にとっては事前の準備や現場での操作など、時間的、精神的な負担があると感じる。少人数での実地の講習会など、活用に向けたさらなる機会をいただければ、とも思っている（話を聞くのと、実際にやってみるのとは違うので・・・）。
- ・実際の授業で使われている視覚的な教材なども示されていて、自分の授業とあわせて身近なものとして参考になりました。
- ・授業で respon を使っており、ある程度の知識はあるつもりでしたが、自分が思いつかなかった使用方法も出てきて、よかったです。
- ・存在は知っていたものの、なかなか活用できていなかった respon 等のメリットについて事例から非常によくわかった。自分の講義でも積極的に活用していきたいと強く思った。
- ・対面授業が再開される前にこのような機会があれば、なお良かったと思いました。
- ・これまで使用したことのない機能について、実際の例を挙げてご説明くださったので、分かりやすかった。また、基本的な使い方についても知ることができた。manaba の機能との違いについて、授業内でリアルタイムに学生に作業させたり、情報を共有できたりすることなのかと認識したものの、理解したことが実践できるほど自分の中で定着してはいない。練習用コースを使いながら、どのような場合に使用できるのか、manaba との使い分けについて考えてみたい。
- ・これまであまり利用してこなかった機能を今後活用していきたい。
- ・respon は、出席の確認、アンケート、小テストなどで使用していたが、他にも多くの機能があることを知った。少しずつ、今回紹介されていた機能を試してみたいと考えている。
- ・講演会のトピックで、対面講義とオンライン講義とのハイブリッドに言及されていた点に可能性を感じた。
- ・今まで、出席の確認・アンケートに respon を使用し、アンケート結果をライブでグラフ化して生徒に紹介するといった機能は使用していましたが、今回の講演会でルーム機能の双方向型授業への有効性やダッシュボードの使用による多教員との共有について知ることができました。対面授業の再開、出席確認方法の変更などにより、respon を前期はほとんど使用していませんでしたが、今回の講演会を参考にして授業に取り入れていきたいと思います。
- ・何となく使ってきた respon について、使いこなしなかった点、未発見の使い方、応用の広さをはじめとして細かい紹介をいただき、色々と得るものが多かったです。今後の活用に生かしていければと思っております。
- ・動画時間は若干長い気がしたが、respon というツールの概略が分かってよかった（名前だけはよく見ていたが）。自分の授業での respon の活用についての検討はこれからだが、特によいと思ったのは次の点。respon で学生に何かを問いつけたとき、とりあえずは回答が匿名ででき、他の人たちがどう答え・考えたかも見られること、また、教員側でも、誰がどういうコメントをしたかをあとで確認できること。質問の内容やクラスの規模にもよるかもしれないが、最初は匿名で、のちには記名で構わない人は記名で、という風にも使えそうな気がした。発表者の方々の、respon を使用した（およその）授業展開そのものに参考になることが多々あり、興味深く閲覧した。「リアルタイムでの学び」の重要性について、あらためて考えさせられる。
- ・活用事例をお話くださった 4 名の先生方のお話しをもっと聞きたかったです。質問がしたかったので残念でした。
 - ①対面授業の中で、大中小規模いずれも配慮願いの学生に対してどのように対応されているでしょうか。一斉に打ち込むことにプレッシャーを感じる。クジが当たるのが怖い。体調などの側面でお手洗い等に立つと、respon が頻繁にあると応えることができず、成績や学ぶ姿勢への影響、先生への失礼に当たるとのプレッシャーになる。このようなことはあると思います。留意されていることを伺いたいです。
 - ②大人数の場合の活用例、参考になりました。respon で出た結果を基に、学生のディスカッションができるなど、大人数での工夫ができそうです。1 回の授業でどの程度(回数や内容等)活用されるのでしょうか。
 - ③少人数のゼミ等の場合、10 名規模であると、ライブで質疑応答する楽しさはあると思うので、ゲーム感覚としては、面白いと思いますが、10 名が一斉に打つ込み無言になるなど、緊張感も生れるように思いました。チームビルディングなどに活用される際に工夫されている点はあるのでしょうか？アンケート項目や卒論へのコメント等、少人数での活用法について参考になりました。
 - ④中規模の授業で活用される場合、ディベートなどに活用されているのは面白かったです。一方で教員の大変さも思いました。中には学生同士で評価しあうと感じる者もいると思うのですが、学生の学習意欲への結びつけや、ストレングスのフィードバック等、先生が心がけておられることや留意点を教えて頂きたかったです。 よろしくお願ひ致します
- ・使ったことのない機能について知ることができた。新しい機能についての説明がもう少しして欲しかった。
- ・今まで manaba の小テストやアンケートを多用していましたが、後期に respon を活用してみようと思いました。
- ・respon を対面やリアルタイムおよびオンデマンドで活用するためには、それぞれの授業形態に応じた方法と授業内容を工夫して準備しなければならず、非常に時間を労力がかかると思います。講師の先生方のお取り組みに頭が下がります。
- ・ゲーム感覚での対面授業における各種ツールの導入の必要性和難しさを感じました。
- ・「respon」を使用していなかったので、とても参考になりました。今後の授業に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・respon は双方向授業にとって良いツールだと思った。
- ・Respon は使用したことはなかったが、使ってみようと思った。先生方の事例報告があった後、それに答える形で制作側からの説明があるという形式は良かったと思う。

- ・プレイヤーなど、全員での即時共有性は発表を伴う授業ではかなり活用できそうだ。他方で、リアルタイムでの理解確認、質問、他の学生の反応の認識は、試験の合格を目指す、もしくはテストでチェックできそうな知識蓄積型の授業では重宝しそうであるが、正解のない課題について学生に深く考えさせることが必要な場合は、manaba のアンケート機能の方がよいと思われる。あるいは後者の場合でも respon の有効活用方法はあるのだろうか。
- ・先生方の実践は大変参考になった。色々工夫されて授業に取り組んでいることが理解された。講師についてはそれなりに参考となった。しかしながらテクノロジーがどんどん発展していく中、私は基本的な動作についてもう少し身近に教えていただければとても助かると思う。難しいことではないのかもしれないがデジタルに対して苦手意識が強く、講演ではなく手ほどきみたいな形で教えてもらえる場があったら嬉しい。
- ・スムーズな授業の進行の為に仲間つくり>に respon の機能を利用するのが印象に残りました。特に、アンケート機能の応用がすごく勉強になりました。
- ・従来、紙でやってきた出席カードやリアクションペーパー、アンケート調査、短い小テストなどのデジタル版で、リアルタイムで集計・共有できるソフトであることが理解できた。ただ、科目特性によっては、リアルタイムで学生たちの反応を確認し、共有したほうが良いケースもあるだろうが、manaba のアンケートやコメント、個別指導、掲示板などの双方向での対応ができる諸機能を利用してじっくり取り組んだほうが良い場合もある。出席の当たりによる発表も出席簿の順番による発表のほうがもれなくチェックできるという点では特に魅力的とは言えない。また、小テストの場合、スマホに表示された単語や文章は簡単に翻訳できてしまうので、語学ではデジタル機器を利用した小テストは使いにくい面がある。即応性のあるリアクションペーパーやアンケート集計機能はいいと思う。今後活用していきたいと考えている。
- ・来年度は4年ぶりの対面授業になる予定ですが、respon を使ってみようと思いました。例年100人程度の履修者がいますので、出席管理からまずは導入して、余裕が出てきたら、アンケート機能や即時反応、当たり機能など使っていければと思っています。出席管理に関しては不正を防ぐのにどうしようかと考えましたが、ビデオ内で位置情報が紐づけられるということをおっしゃっていましたので、抑止になると思い安心しました。要望としては、本動画を消さずに（来年度も）、いつでも閲覧できるようにしておいていただきたいです。
- ・コロナ禍でのリモート授業対応で疲弊してしまい、(GoogleDrive 使用の理解 音声付きパワーポイント作成 動画作成 YouTube 投稿 manaba の各種設定 レポート回収等々) 対面授業再開後はコースニュース、個別指導コレクション、レポート機能など manaba を通して最低限のやり取りを行うに留まっていた。respon 機能についてはその名前は知っていましたが、使っている先生からは便利だということも伺っていましたが、なかなか手を出せずにおりました。今回の講演会で若手の先生が積極的に活用され、また工夫されていることに接し大変刺激を受け、自分の授業（対面スポーツ実技）で、どの様に導入できるか考え始めています。運動実技授業という特性から参加者の顔色や表情の観察と併せて、出席確認は点呼により行っていますが、事例紹介にありました、自ら授業アンケート 授業終了後にその日の実技について感想を聞く仲間作りの一環で自己紹介アンケートなどシンプルな機能からでしたら導入出来そうです。私にとりましてはタイムリーな内容の講習会を実施頂きありがとうございました。
- ・respon の多様な使い方、広がり、深まりについて、具体的に学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・respon のルーム機能の説明がよかった。今後活用を検討したい。
- ・respon の使い方を再確認でき、新しい可能性をさがることができました。
- ・知らなかった機能もあり、またさまざまな使い方のアイデアを膨らませながら拝聴しました。若い先生方が上手な使い方をしているので、manaba や生成 AI への授業対応などについても、今回のように何人かの若手の先生に事例をしていただけるとよいと思いました。ありがとうございました。
- ・オンデマンド授業でも respon が使えることがわかりました。
- ・respon の活用方法について、理解できた。
- ・オンライン授業での Respom 活用は、大変参考になりました。
- ・respon を取り入れてみようと思いました。
- ・少人数の授業では使用していなかったもので、さまざまな活用事例を知ることができたのが貴重でした。まだまだ未使用の機能が多と感じたので、夏休みに少し動画を見て勉強したいと思います。
- ・respon が UNIPA の不正出席登録の防止手段として使えるというのは、新たな発見だった。また、大勢の人の前で口頭で発言するのは気が引けるという学生も、respon を使えば発言しやすくなるのではないかと気づいた。さらに、学生がチャット GTP に問題文を投げ込むことを防止する機能も備わっていることを知ったことも収穫であった。
- ・自分の授業で使っていたので、ある程度 Respom に慣れた状態で話を聞くことができて良かった。活用事例があったので、自分の知らなかった使い方を知ることができた。他の先生もおっしゃられていた、発行したカードの修正と同一番号の使いまわしができるようにして欲しいと思います。これらが可能になるとかなり便利になると思います。使われた資料を共有できるようにして欲しい。
- ・これまで比較的人数が多い講義での導入部分での使用にとどまっていたのですが、具体的な活用方法がわかり、すべての授業において、継続的に使用が可能なのことがわかり有意義でした。ありがとうございました。
- ・学生が「knowledge」を習得することが要求される科目についてはかなり利用が制限されると想定していたが、room については学生の質問集約に非常に効果的であると感じた
- ・まず、緩い方法で respon を使ってみようと思う。

- ・今回、さっそく respon を使用したく、講演会終了直後に直接 respon 社に問い合わせたところ、講演会終了1時間以内に respon 社の滝口取締役からお電話をいただき、前向きに検討することになった。このような素晴らしいビジネスパートナーを本学が有していることは誇りである。
- ・respon の機能は使用したことがなかったので、まずは習うより慣れろかと思った。併せて学生がどのように見えるかを示してくださったのはわかりやすかった。森田氏が後半紹介してくださった事例のレジュメがあればありがたいです。
- ・後期から respon を使用したいと思っていましたが、マニュアルを見ると慣れるまで大変そうだ・・・と思って少し憂鬱でした。ですが今日の研修を受け、楽しみにになりました。
- ・2020 年度より Respon を講義科目で使用しておりますが、これまでの復習とさらなる発展的な使い方について学ぶことができ、とても有意義でした。対面授業における活用法として、学生さんが意見を出しやすいという側面についてはなるほどと思いました。respon はクイズのようでとても面白いなと私個人は感じているので（即座に意見をシェアできるのがとても良いです）オンライン授業に特化することなく、これからも活用方法を模索したいと思います。ありがとうございました。
- ・宮崎先生のご報告にあった学生にスマホや端末を使わせた時の充電問題、なるほどと思いました。他の履修者の回答を見ることに意味があるケースでは respon は使えるかなと思いました。コメントのやり取りの場合、manaba の掲示板（スレッド）やプロジェクトと respon とで何が違うのか？（なぜ manaba の機能ではなく respon を選択したのか？）が分かってなおよかったです。あと、respon を用いてテキストベースで学生相互にレビューするのは便利ですが、レビューを受けた本人は全てを読むのだろうか？と関心をもちました。潜在的にコメントを取捨選択をしていると成長できなくなりそうですし、対面で口頭でレビューを受けた方が成長するのではないかと（率直にコメントしそれを率直に受け止める力+その場に出さない／出せないことはないものとするは社会では大事ではないか？）と感じたので、そのへんの考察もいただけたとありがたかったです。また、respon を使うと学生の反応（アンケート回答）がよいということはいいことだと思いますが、学問的な理解度や最終的な成績に好影響があったのかを知りたかったです。
- ・ほとんど使ったことがなかったので、どのような機能をどのように使えばよいのか、とても参考になりました。実際に使っている先生方の事例は、とても分かりやすく参考になりました。
- ・お世話になります。つい自分の授業のサイズでの使いこなしに注力してしまいましたが、クラス編成によって用法用途が異なり大変勉強になりました。秋学期に早速取り入れようと考えております。貴重な機会をありがとうございます。
- ・森田社長のご講義の中で、教員の画面と学生の画面の両方を見ることができたので分かりやすかったです。
- ・森田様の講演では respon は履修登録外の学生でも参加できるというお話でしたが、respon に学外者のゲスト利用、一日だけの限定利用などの機能やサービスはありますか。オープンキャンパスに参加する高校生、親御さんにも試用していただくと体験授業や学科・専攻ガイダンスで有効活用できると思いました。
- ・複数の先生方の授業での活用方法について、話が聞けたので参考になった。
- ・「び逃げ」の対策として当たりくじ付きカードが有効であること。質問：カードの提出をブラウザを不可にしてアプリのみに設定することができると述べていたと思いますが、この設定方法がわかりませんでした。
- ・複数の事例紹介が大変有意義でした。
- ・個人発表の際に respon を併用してコメントを文章に残し、その後のディスカッションのきっかけにするのはとても良いと思いました。また「当たりくじ」も緊張感があってぜひ利用してみたいと思います。
- ・respon の会社の方の使い方のレクチャーがとても参考になりました。機会が苦手で一度聞いただけでは習得できませんので、随時、講習会があったり、動画付きの説明が随時配信されていたりするとありがたいと思いました。
- ・respon の森田社長のお話は大変ためになりました。今後ももっと対面授業で活用したいと思います。特に授業時間のほとんどを課題に費やす講義や、テストと即時採点&回答共有、授業途中アンケート、得点計算を活用した使い方は興味深く拝聴しました。respon を対面授業で有効活用するためには、学生がスマートフォンを常に使用できる環境が必要なので、午前中の授業は充電してくることが必須だとしても、充電禁止は解いてあげる必要があるかもしれないと思いました。
- ・respon は出席機能しか活用したことがありませんでしたが、今回の FD 研修を受け様々な授業の活用事例や機能を知れたことで可能性が広がりました。また、履修人数の異なる事例や、オンデマンド授業での活用事例を通して、具体的なイメージを持つことができました。講師の先生方、短い時間でわかりやすい説明をありがとうございました。
- ・通常 manaba のレポート機能や小テスト機能を使っているが、ライブで参加するという意味では respon の方が効果が高いと考えられる。後期から、respon を使って双方向授業のやり方を工夫したいと考えた。
- ・今後 respon の利用を検討していましたので、大変参考になりました。オンデマンド授業での利用は難しいのかと思っていましたが、様々な使い方があり興味を持ちました。
- ・他の受講生の意見をその場で共有し、学びを深めるためのツールとして、ぜひ採り入れてみたいと思いました。
- ・respon の活用について、いくつかのヒントが得られてよかったです。
- ・リアルタイムな学びの場が重要であり、そのツールとして respon の活用は非常に効果があると改めて感じました。
- ・すでに改善されているのかどうか分かりませんが、学生によると PC などのブラウザ上ではルームに入れないとのこと。たしかにフリック入力ですが、PC を持ち込んで受講している学生もいます。ブラウザでもルームに入れるようにしていただければと思います。またリアルタイムの相互閲覧は、フリーライドも助長するので使い方次第だと思いました。

- ・ほかの先生の授業例や、respon の森田社長の説明を聞いてよかったです。「ルーム」機能はまだ使ったことがなかったので、学生さんの様子を見て、今度試してみたいと思います。
- ・RESPON の良さに気付かされ、授業で活用したいと思いました。自分の意見を述べるのに匿名性を求める学生の姿に、近年の SNS 等の中傷などもそのような流れの中で起きているのではないかな等も感じてしまいました。やはり最終的には自分の意見を表明してそれに向き合い、責任をとれる人材を育てていきたいとも痛感しました。
- ・コロナ禍以降、対面授業において授業中に携帯（スマホ）を操作しながら受講している学生が散見されるようになりました。ながら受講（聞き流し受講）の癖がついたように思います。携帯（スマホ）を活用しながら授業を行う方が、かえって教員のストレスが緩和されるのかなと思う講演でした。
- ・90 分の講義を、その内容（？）により適宜区切り、その都度、受講生がそれを確認できる仕組みを作ることもまた学習効果を高める一つの方法、のようです。
- ・最終的に manaba と respon とどちらが成績評価に適しているのか検討していきたいと思います。・学生が respon で一度答えてしまったものに対して、加筆・修正はできるのでしょうか。respon の性質上、「その場で」というのがメリットだと思うのですが、森田社長様ご紹介くださったプレゼンへのコメントは一回送信（再送なし）で問題はでなかったのか興味があります。・学生に他の学生のコメントを見せたいのですが、学生が自分のグループだけのコメントを見られるような設定はできますか。ちなみに、自分のグループへのコメントは自分ではしません。他のグループへの評価をするだけです。そしてフィードバックするために閲覧したいのは自分のグループのみです。そのほか、今まで manaba でやっていたことが、すべて respon でできて、どうもこちらの方が学生は楽しめ、教員は少し楽になるような気がしました。後期はシフトしてやってみたいと思います。4) 講演前の質問に、他の学生の回答を見られるか、とお尋ねしておりましたが、先生方のご紹介を拝聴し、可能なことが分かりました。今回の講演は、まさにどうしたらいいかと悩んでいたことへの回答となるような講演でした。ありがとうございました。
- ・使っていなかった機能を知ることができて良かったです。今後の授業で活用したいです。
- ・各先生方の respon の使い方が魅力的で、自分の授業でも取り入れようと思います。
- ・他の先生方の授業の方法はもちろんですが、respon の機能や使い方などを知ることができてとても参考になりました。ゼミや少人数クラスで今度使用したいと思います。卒論のフィードバックなども効果的であると感じました。また、森田社長のお話の中で、ダッシュボードの共有の方法や星マークの活用の方法、ルームの具体的な活用方法などを知ることができて今後の授業の展開に役立てたいと思います。respon が編集できるようになると非常に便利なのでお願いしたいです。とても参考になる FD 講演会でした。ありがとうございました。
- ・自身の授業でも respon を活用できそう、活用してみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・respon は使用したことがなかったため非常に参考になりました。有益な情報をありがとうございました。
- ・学生は、個人のスマートフォンの他に、PC やタブレットが自由に使える環境にあるのでしょうか？ PC やタブレットも学生個人の負担で用意しているのでしょうか？ 大学が PC やタブレットを入学時に学生に貸与しているなどをしていのでしょうか？ 非常勤講師なので、貴学の事情が分からないために疑問に思いました。
- ・正に、授業中のリアルタイムアンケートの応返、使ってみたく強く思いました。ありがとうございました。ところが、何せ、機械（PC）音痴。私の PC 持ち込みで、出勤時に、少々の手ほどきを希望します。私、実は「respon 機能」が、どこにあるかも知らないで、後期開始までに探してみたいと思います。今まで、類似の内容は、マナバ（アンケート）でやっているつもりだったのですが、徐々に、「respon」に移行されるのでしょうか？
- ・授業内で学生と教員の双方向の意見を集約できること、学生に集計結果をその場で見せられること、質問にも答えられ共有できることがわかりました。
- ・まだ respon を使用していませんでしたが、前期のエコロジー I（千代田校 70 名）で出席のコード入力ができない学生が必ず 10 名以上出たので、respon を使用すればそれも解決できたかと思いましたし、後期のオンデマンドでの講義でも使えると便利だと思いました。取り入れていきたいと考えております。
- ・今回の講演を聴いて、respon の利用を検討してみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・これまで respon を使っていなかったもので、使ってみたいと思います。
- ・学生のより積極的な授業参加を、当たりくじ付き機能などの respon の機能をさらに有効に活用することで、高めることができそうであると感じました。ありがとうございました。
- ・respon に関する具体的な情報を知らずにおり、イメージできておりませんでしたので、具体例等も含めご紹介いただき、参考になりました。ただし、実際に自分の授業に取り入れる場合の手続き等がまだよくわかっていないところもあり、改めて確認してみようと思います。respon を使う場合、障害のある学生への配慮や支援ツールなど、他にあるのか、なども知りたいと思いました。（現在こちらで担当している学生には該当者はいませんが、他大での授業で、画面を見続けることの苦勞や、視覚障害の学生への対応など、その場で示されるものをどのように共有できるのか、なども気になりました。個別に工夫するほかないのかもしれませんが。）
- ・respon をこれまで使用したことがなかったのですが、respon は、学生さんの解答内容を瞬時に学生さんと共有できるところが、有用で素晴らしい機能だと思いました。
- ・有用にもかかわらず、利用していない機能が沢山あることがわかりました。担当している科目にどれだけ使えるかはまだわかりませんが、チャレンジしてみます。とてもよい機会を与えていただき、講師の皆様には感謝申し上げます。
- ・授業中に respon を活用することで、学生の授業への参加度向上に期待できることがわかりました。

- ・本日は有意義な研修をありがとうございました。まだ **respon** を活用していませんでしたが、イメージが湧き、不安要素が少なくなりました。具体的な授業活用事例が多く、デメリットも明確に示してくださったため、活用の判断が深まりました。後期講義でどう活用していくか考えます。
- ・本学教員の事例紹介と開発企業側の講演のバランスが良く、大変参考になりました。
- ・**respon** をうまく使いこなしている事例としてとても参考になったが、もともとの仕様としての **respon** の機能の少なさや使いづらさ（特にその場での柔軟な変更への対応）が目立つという面もあったと思う。
- ・リアルタイムでアンケートやクイズ、集計ができるので、オンラインや対面授業内で活用していくと良いと思いました。
- ・具体的な操作方法や事例を挙げてくださったので、自分の授業でどのように活用したらよいかイメージを持つことができました。
- ・ネットが不安定な場合の対応や、一部アプリの利用に困難を感じる学生への対応について言及されている先生方がいらっしゃり印象に残った。前者については、**respon** ではないが普段学生から上手く出席登録できないと相談されることが多く、難しい問題だと感じていた。また、アプリの利用に困難を感じる学生については、若者だから皆使いこなせるだろうという思い込みを持たないように注意したいと思った。森田氏のご説明がとても分かりやすく、学生の画面を見ることもでき大変勉強になった。
- ・講師の方々から、様々なノウハウをうかがうことが出来て、大変勉強になりました。
- ・講義形式の授業で、**respon** は以前少し使っていたのですが、最近紙の **respon** スカードを使用していました。改めて **respon** の使い方を見て、授業で取り入れたら便利だと感じました。後期に試してみたいと思います。どうもありがとうございました。
- ・担当する授業科目の性質上、対面による対話が重要であるため、**respon** を使用することがありませんでしたが、使い方によっては学生の授業への積極的な参加のモチベーションを維持できる可能性があることが分かりました。
- ・視聴しながら **respon** を操作することで、理解が進みました。授業の中では是非取り入れたいと準備を進めていく予定です。
- ・**manaba** を使った双方向授業は行なっているが、**respon** を使うことでリアルタイム双方向になるのが魅力的だと感じた。一方で、授業準備が大変な点や、学生の **respon** スに対して、こちらもリアルタイムで対応しなければならない問題点があると感じた。現在は **manaba** で授業の感想や質問を集めているが、それを集計して代表的な質問や感想には翌週の授業で回答している。回答するためには教員も改めて調べたりする必要があり、なかなかリアルタイム性を求めるのは難しいと感じている。
- ・**respon** の使い方、いままで使っていなかった方法を思いついたのが良かったです。UNIPA での出席登録と **respon** の出席登録が被っているので、どう使い分けるかが悩みどころになっています。また、今日の話でもありましたが、代返対策で効果的な使い方があれば、共有いただけると幸いです。
- ・大人数の授業の場合であっても学生が主体的に学べ、双方向性の授業を可能にすることができるツールとして有効だと思いました。
- ・**respon** は授業の出席機能だけしか利用しておりませんでした。今回、アンケートやクリッカーの機能を活用した授業をご紹介いただき、学生の積極的な授業参加を促せると理解しました。発表された先生に感謝申し上げます。
- ・4名の先生方による **respon** の活用事例はたいへん有益でした。人数規模別による対面授業のケースとオンデマンド授業のケースが紹介されましたが、自身が担当する授業形式がオンデマンドのため、竹部先生の活用事例はぜひ参考にさせていただきます。これまで、**respon** の機能はアンケートと出席確認のイメージが強かったのですが、小テストやレポートなど、様々な活用方法があることを理解しました。オンデマンドの場合、学生は孤独な学びに陥りやすいため、**respon** を活用することで相互の意見や考えをリアルタイムで共有し合い、ともに受講している感覚を持たせることは重要であると考えます。さらにルームや当たりくじ付き出席、ChatGPT など AI 対策ができる点も参考になりました。**respon** は全員参加型の双方向授業をデザインする 1 つのツールとして、最大限活用したいと思います。
- ・**respon** について何も知らなかったもので、使い方や活用方法を知ることができて良かった。思った以上に簡単に使えることがわかった。
- ・**respon** の出欠を取る以外の利用法が具体的にわかり、とても有益でした。ありがとうございました。
- ・大人数の授業の仕方と少人数によって、**respon** の良さの活かし方が変化すると感じました。大人数の集約には非常に有効である一方で、本来の対面での対話に関するハードルが高くなってしまう事を助長してしまわないか、匿名なら、文字表記なら大丈夫。でも、発話はダメ・・・でとどまってしまうようにする教育の工夫が非常に大切だと思いました。コースグループの設定は、同じ教室で実施されている授業であるにも関わらず管理上の問題でコースが分かれている場合、それらをコースとしてグループ化できます・・・これは、同一の教員が管理しているものなのか、複数の教員で割り当てられている別個の授業を統合運用（複数教員で一元管理）できるという仕様なのか、設定の仕方と仕組みを詳しく教えていただきたいです。例えば、同一教員の場合は、3・4年生の合同ゼミを実施する際などがこれにあたります。複数教員の場合は、同一科目・同一時間の授業を複数の教員が別々に管理している場合です。
- ・普段は **manaba** を使用しているが、**respon** との併用について考える良い機会となった。
- ・**respon** を活用することのメリットは、アンケート機能等を活用するなかで実感しておりますが、授業内で費やすことになる時間と効果とのバランスも重要になることを再確認できました。準備にかかる時間については、次年度への繰り越し機能などの改善点の指摘がありましたが、負担軽減策として期待できると思いました。
- ・**respon** の機能および活用事例が大変参考になりました。

- ・匿名で自由に意見が出せること、他の学生の皆さんの意見をすぐに見られること、対面式講義の場合でもひとりで講義を受けたい学生の気持ちを尊重できることなど、respon のメリットを具体的に知ることができて非常に有難かったです。
- ・manaba を活用することはあったが、respon を活用したことはなかった。リアルタイムで共有できる機能に興味を持てた。
- ・新しい機能の紹介は大変参考になりました。マニュアルをみただけではなかなかやってみようという感じにならないことも多いですが、実際の活用事例を確認できたことによって、より授業での活用がイメージでき、使ってみたいと思いました。また、学生からみた画面なども見れて、よかったです。学生から使い方やうまくいかない場合などを質問されたときに、画面が違っていてわからないことも多いので、参考になりました。後期から授業の中で、さっそく試行錯誤しながらよりよい使い方を考えていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・respon の機能を学ぶことができて、活用を検討できる気がした。
- ・既に使っている機能もあったが、respon の詳しい使い方について例示されていたのは大変参考になった。
- ・後半あったような respon の基本的な仕組みや使用方法にフォーカスした時間をもっと充実しても良かったと思う。実績のない者からすると、使ってみたいが実際どうしたら良いのか、最初のきっかけが難しい。デモ環境で試してみることができると、取り組みやすいと思った。
- ・respon 機能をこれまで全く使っていなかったのですが、問題を出してその場で回答が集められるというのは非常に便利だなと思いました。また、オンラインで出席をとったあとに教室から出て行ってしまう学生がいるという問題への解決策にもなるなと思いました。積極的に使っていきたいという気持ちになりました。また、これは本題ではありませんが、respon の実際の使用例として、各先生方が自分の授業の話をしてくださるので、普段なかなか人の授業を見る機会というのがないため、その点でも非常に興味深いと感じました。
- ・respon は前任校でも活用しておりました。その時点で、ずいぶんと情報を提供してもらいましたが、今回の研修では、それらの情報を再確認することができました。ありがとうございました。
- ・後期の講義で実際に使ってみたい
- ・respon は、manaba と連動して使用できるように画面上設定されていることが分かりました。操作方法が不確かでしたので講師の方の説明は有意義でした。教員が設定したアンケートに学生が授業内で回答すると即座に集計結果が得られる機能は、早速、後期の授業で活用したいと考えております。しかし、respon 導入前からすでにある UNIPA や manaba の機能にも、講義資料の配付、レポート提出管理、小テスト、アンケート、出席管理なども含まれており、機能が混在しているように思われます。
- ・動画だけではなくマニュアルなどをどこかにアップしていただけると活用しやすい。
- ・大変勉強になりました。双方向授業、アクティブラーニングをどのように進めるか。いつも腐心をしています。学生さんの「おねんね」は授業に対する無言のメッセージかなと思っています。でもどこまで私が活用できるか？心配でもあります。
- ・私の授業は実習が多いのですがすぐには難しそうでしたが社長の説明を聞き面白いツールだと思いました。ありがとうございました。
- ・ICT活用は対面型でも十分に活用できることを確認できました。レスポンスなど新しいアプリを活用してみようと思います。一方で、ダウンロードの仕方からよく調べないと分からない自分の現状があります。
- ・respon の活用方法について具体的な事例を聞いたことが参考になりました（特に情報リテラシーの先生のお話し）現状、manaba を中心に課題提出等を行っておりますが、アフターコロナの授業形態として respon も組み入れていくようなことができないか、担当講義の中でいい活用方法を考えるきっかけ、動機になりました。この講演会については後日見たこともあり、YouTube なので広告が途中で流れるのは若干見づらくないかもしれないと感じました（仕様上どうしようもないかもしませんが）
- ・It was a very good and informative workshop learned a lot.
- ・新しいツールとして活用できる機能だと思いました。実際に使用している先生方のお話をお聞きすることができ、また、活用方法についても丁寧に説明いただき、参考になりました。
- ・授業内で双方向のやり取りが促進されることは、教育上とても良いと感じました。リアルタイムで交流がしやすく、学生さんの様子も記録として残るため、今後も積極的に ICT を活用していく形が良いように思いました。また多くの先生方が respon を活用していますので、今後はこうした ICT を活用した教育による「効果」をきちんと検証する機会などがあれば、より良い教育につながっていくものと感じました。
- ・respon は一度も使ったことがなかったのですがとても参考になりました。特に学生の発表の際の意見を求める際にぜひ使ってみてほしいと思いました。ありがとうございました。
- ・実際に使い込んでいないと分からない内容をご教示いただき、感謝申し上げます。ChatGPT などの生成 AI が一般的になる中で口頭試問は学習の成果を測るのに有効な方法かと思います。口頭試問を大人数に実施するのは現実的ではありませんが、respon を使用することにより可能になるかと思います。いままでも多少は使用しておりましたが、より使用頻度を増やしてみたいと思いました。
- ・respon について、全く知識がなかったのですが、事例を教えて頂き大変参考になりました。短時間で効率よく学べる反面、調べる、考える、考えをまとめる機会が減る可能性も感じたため、教科に合った使い方を探りながら、効果的に活用したいと思います。
- ・授業形態に合わせた活用法を知ることができた点が良かった。

- ・「respon」と言う情報教育機能について、まったく知らなかった。出席管理やリアルタイムアンケート、チャットシステムなどを利用することで、学生がより積極的に授業に参加できるとのことであった。対面授業では、一方向の授業になり易く、いかに学生と授業を共有できるかが常に課題となっている。少しずつ、いろいろな情報教育機能を学び、授業に取り入れたいと考えさせられる講演でした。
- ・少人数授業での使い方に関して、学びが多かったです。ゼミナールなどにも活かしたいと思います。
- ・これまで使用した経験がなく、敷居が高かったが、社長さんの説明が大変分かりやすく、後期から少しずつでも取り入れていこうという気持ちになった。また、先生方の事例紹介を拝聴し、respon の活用だけでなく、授業展開の点からも大変参考になった。ありがとうございました。
- ・今春、初めて manaba、respon に触れ、どんな活用方法があるのか知りたと思っておりました。授業中に学生の意見を聞きたいときに口頭で尋ねると、回答しない（できない？）学生も少なからずいます。この respon のアンケート機能は、匿名であるため学生が意見を述べやすいことや学生の意見を集約しやすいこと、またその意見をすぐに学生間で共有できる仕組みがあることをこの FD 講演会で学びました。次年度は担当する科目でぜひ使用してみたいと思います。
- ・大変貴重な機会をありがとうございました。今年から貴学にお世話になっております。まずはシステムの理解と基本的な活用から始めたいと思いますが、4 人の先生方の創意工夫や、森田社長の有効な実例を盛り込んだ講演が大変わかりやすく、参考になりました。
- ・respon は多用していますが、具体的な tips を更にいただくことができました。今後、実装を望む機能は 4 つです。1. アンケートの指示文に改行を入れられるようにしていただきたいです（なお現在、回答には改行を入れられるが表示されない）。2. 採点機能の改善。現状では、たとえば「B, D」が正解の場合、「D, B」は不正解と採点されるため、逐一やり直す必要があります。3. 出席点・遅刻点がデフォルトでそれぞれ 10, 5 になっていますが、デフォルトを教員が変更できるようにしていただきたいです。たとえば 0 とか 1 とか。アンケートで小テストをする場合、設問の点数との比率を考慮する必要がありますし、アンケートでは遅延提出は採点されない（※）ので、遅刻点の設定は意味をなしていないように感じます。（※遅延提出が採点されない仕様は、そのままでいいと思います。〆切後、答え合わせが終わってから提出する不正が、けっこうありますので）4. 提出前・提出後の表示は、英語でなく日本語で、わかりやすく表示した方がいいです。「入力・記入はしたが submit した／しない」をめぐるトラブルになることがままあるので。
- ・小さなクラスであっても、学生はお互いに言葉を交わし意見を述べることをかたくなに拒みます。それを解くために 1 年かかる。respon を使えば匿名で学生の言葉を聞くことができるようだが、それで喜ぶ気にはなれない。これほどの仕掛けがないと学生と学生、教員と学生は言葉のやり取りをできないのだろうか。顔と顔を合わせて言葉を交わすスタイルはこれから廃れるのだろうか。
- ・respon は便利な機能で、使いたいとは思いますが、一点気になるところがありました。それは、対面授業で使うと、学生も教員もスマホやパソコンの画面を見る時間が多くなり、せっかくの対面なのに、face to face で直接対話する機会をわざわざ減らしていると思われる点です。少なくとも少人数の対面授業で使うことは検討の余地があるように思いました。・事前に提出したアンケート項目に関して、講演者からの回答がない。
- ・双方向性をめざすという意味では、良いシステムであると思います。ただ、科目によって適合性がかなり違うのではと感じました。データ集積に終始してしまう恐れもあり、じっくり思考させる授業には不向きではないかと思いました。設定していた終了時刻は、できるだけ守ってほしいと思います。
- ・実際に respon を使用している学部内の教員に疑問に感じたことを聞いてきたいと思います。特にスマホを授業中使わせることが、教員の指示以外のことでスマホを使うという事態を誘発しないのか気になりました。
- ・学生の情報は参考になった。匿名でない意見が言えない学生が殆どであることに驚くとともに、個人的な実感とも整合しており、納得した部分でもある。一方、respon により授業内容の理解度がどのように変わったのかについて興味がある。機会があれば、理解度・到達度の違いについての紹介を期待する。US West Point's の実験で電子機器使用の有無と理解度・達成度との関係を評価した研究がある。本学との違いに興味がある。また、別件だが、数式や図形入力のできない manaba や respon は数学系の授業に適用するのは難しいと感じていたが、そもそも設計思想にそのような科目に対応することが入っていないことを知り、適用限界への意識を新にした。
- ・利用したいですが、授業が多すぎてとても準備ができません。前期は週に 12 コマありました。根本的な授業負担の改善を求めます。
- ・先生方の使用事例は大変参考になりました。事業者の説明は、マニュアルを読めば分かる内容で、研修会講師としては工夫が足りなかったと思います。
- ・ICT 時代に適した大変便利なツールで、学生のほうが使用に長けている中、逆に情報社会でより一層求められるであろう対人コミュニケーション能力や自己管理能力の向上に注力しており、現時点では使用しておりません。本年度に入り、出席システムへの一斉アクセスで授業時のネット環境が不安定になっているため、使用の場合には、大人数で一斉アクセスを前提としたネット環境が求められると思いました。
- ・既に respon を使用しているので、新しい使い方等の情報は期待ほどではなかった。
- ・オンデマンド授業において respon を利用する利点あまり感じられなかった。コロナ禍によるオンデマンド授業がすでに 4 年目に入り、manaba と UNIPA を使った授業もある程度慣れてきたが、さらに respon を使うとなると少しハードルが高い気がした。

- ・社長さんの講演が大幅に時間を超過してしまいました。もう少し講演慣れされている方を講師にお招きいただきたいです。 本学の先生方の講演は参考になりました。
- ・前半の先生方の使用事例は大変参考になりました。後半のソフトウェアの説明は、機能をたくさん説明していただきましたが、まだ使ったことがない人にとってみるとわからないまま話がすすんでいたのではないかと懸念します。
- ・メーカーによる利用方法の解説が冗長であった。
- ・最後の方がもう少しコンパクトでもよいように感じました。
- ・respon の社長に質問をしたかった点があるが、質問時間がとれなかったのは残念でした。
- ・自分の授業では、「あなたの場合どうですか」的な身近の事柄の質問を組み込むことが難しい。
- ・とくに後半からは「学問とは何なのか」ということについて考えてしまった。わたしにはよくわからなかった。
- ・主にレスポンスを利用したコミュニケーションの事例を紹介いただいたが、担当授業の性質、目的からして、労多くして効少なし、と感じられる。大半の担当授業が対面化しているため、二次的効果、付随的、末節的サービスを授業時間外に提供することを、美談とする雰囲気を作るのでは、と危惧する。
- ・授業時間内に飽きさせないという努力はわかるが、単位計算の定義には授業時間外の学修時間も含まれる。いったん教室から離れて、時間をおいて振り返り、自主的に勉強することも重要。じっくり考え続けるという習慣をつけさせる工夫も必要ではないか。
- ・講演者の人数が多すぎて、講演内容にまとまりがないように感じた。講演者に気の毒。
- ・学生の規模別に活用方法が示されており、大変参考になった。活用事例の紹介と respon 自体の説明の順序は逆のほう理解しやすいのではないかと感じた。今後の講義で活用してみようと思える内容だった。ありがとうございました。
- ・respon の機能や活用について具体的な例から想像することが出来たので、マニュアルだけ参照しているよりも理解が進んで良かったと思います。事務職員なので授業での活用機会はないのですが、ガイダンス等で活用が出来るのではないかと考えました。
- ・respon を知らなかったなので、勉強になった。アンケート 6 は、学務助手の立場では答えられません。

以 上

(2) FD 講演会：「ChatGPT とビジネス・大学教育研究～AI の発展に伴う課題と対応～」

講師：株式会社野村総合研究所 未来創発センター 生活DX・データ研究室

室長 塩崎 潤一 氏

日時：令和5年12月15日（金）16:30～18:00 Zoomによるオンライン開催



令和5年度後期 全学FD講演会

ChatGPTと ビジネス・大学教育研究 ～AIの発展に伴う課題と対応～

12/15
金曜日
16:30～18:00
Zoom開催

近年、ChatGPTなどの生成系AIがビジネスや教育の現場で活用され始めていますが、活用の具体策やリスク対策など不十分な点も多いのが現状です。本講演では、生成系AIの特徴や仕組み、生成AIで変わる社会の動向、大学の教育研究に与える影響を学び、今後、生成系AI技術の進展がさらに進む場合、大学教育界にどのような変革が求められるかを考えていきます。

講師 塩崎 潤一氏
株式会社 野村総合研究所
未来創発センター 生活DX・データ研究室 室長

略歴 筑波大学社会工学類卒業。野村総合研究所入社。専門分野はマーケティング戦略、数理解析・数理モデル、生活者の価値観など。同社にてデータサイエンスを活用した新規事業の立ち上げに責任者として関与。マーケティングサイエンスコンサルティング部長などを経て、2021年にデータサイエンスラボの初代ラボ長就任。主な著書に「変わりゆく日本人」、「第三の消費スタイル」、「大衆化するIT消費」、「データサイエンティスト入門」、「まるわかりChatGPT & 生成AI」など。（社）データサイエンティスト協会・理事、広島大学・非常勤講師（2019年～）、統計数理研究所 統計思考院・運営委員（2019年～2020年）。

主催 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

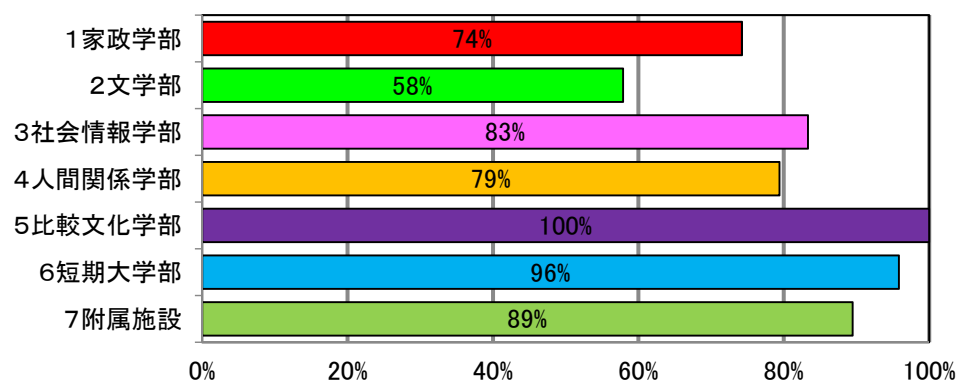
FD 講演会アンケート集計結果

- < テーマ > ChatGPT とビジネス・大学教育研究～AI の発展に伴う課題と対応～
 < 講師 > 塩崎 潤一氏
 (株式会社 野村総合研究所 未来創発センター 生活DX・データ研究室 室長)
 < 開催方法 > Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
 < 開催日時 > 令和5年12月15日(金) 16:30～18:00
 < 録画配信 > 令和5年12月19日(火)～公開中
 < 回答期間 > 令和5年12月15日(金)～令和6年1月31日(水) 23:59
 < 未回答者 > [専任教員]家政学部16人、文学部15人、社会情報学部6人、人間関係学部7人、
 (研修等除く) 比較文化学部0人、短期大学部1人、附属施設2人

【参加者(アンケート回答者)の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	16 人	33 人	49 人	66 人
2 文学部	5 人	17 人	22 人	38 人
3 社会情報学部	10 人	20 人	30 人	36 人
4 人間関係学部	22 人	5 人	27 人	34 人
5 比較文化学部	12 人	9 人	21 人	21 人
6 短期大学部	13 人	10 人	23 人	24 人
7 附属施設	3 人	14 人	17 人	19 人
8 非常勤講師	13 人	81 人	94 人	
9 助手	1 人	29 人	30 人	
10 事務職員	1 人	0 人	1 人	
合 計	96 人	218 人	314 人	

【所属別参加率】(専任教員)

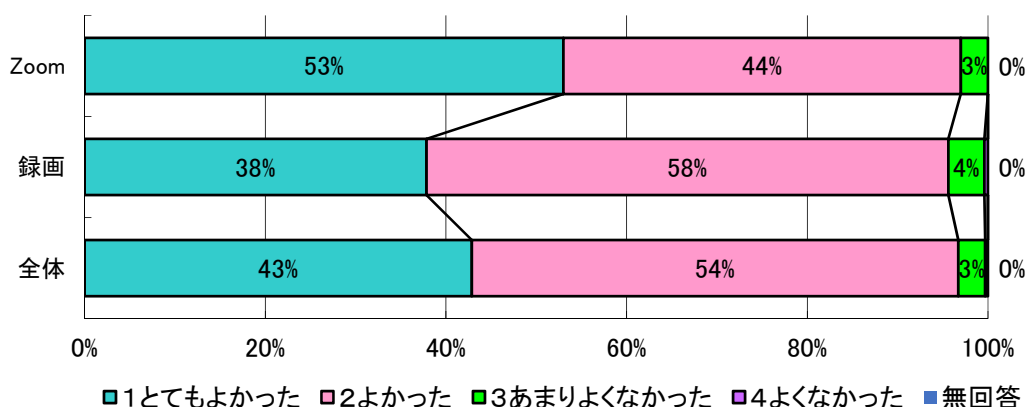


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 312 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

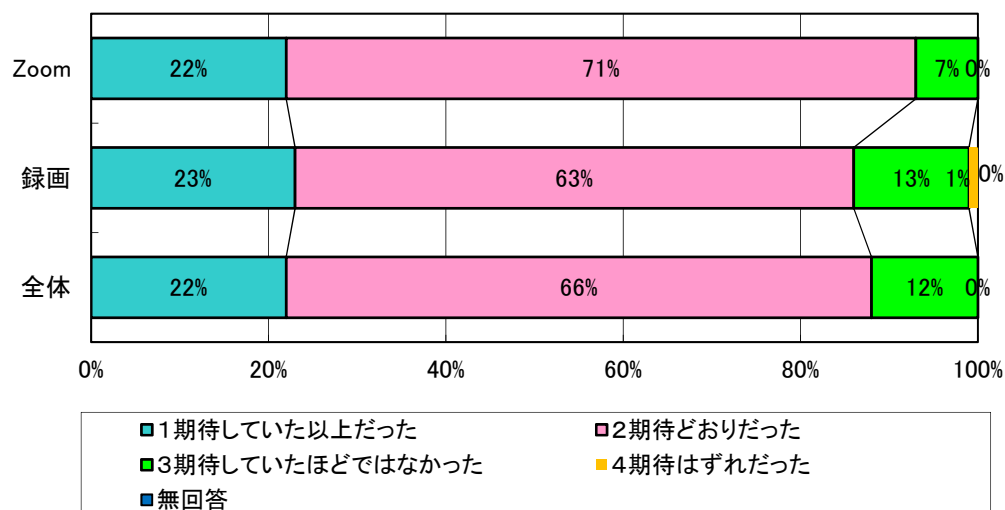
（１）講師について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とてもよかった	51 (53%)	83 (38%)	134 (43%)
2 よかった	42 (44%)	127 (58%)	169 (54%)
3 あまりよくなかった	3 (3%)	8 (4%)	11 (3%)
4 よくなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



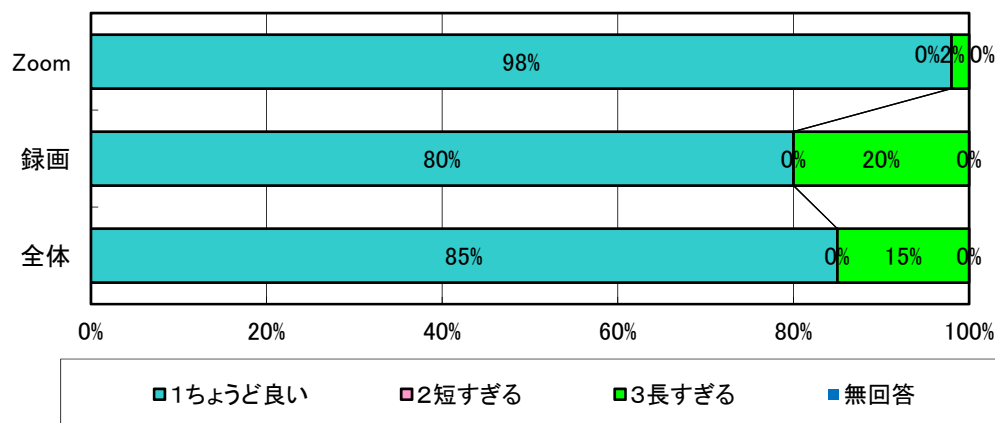
（２）内容について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 期待していた以上だった	21 (22%)	49 (22%)	70 (22%)
2 期待どおりだった	68 (71%)	139 (64%)	207 (66%)
3 期待していたほどではなかった	7 (7%)	29 (13%)	36 (12%)
4 期待はずれだった	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



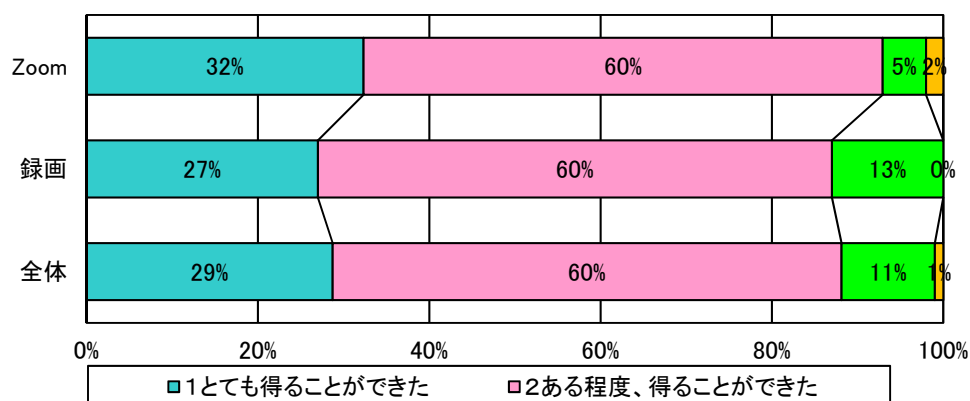
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	94 (98%)	174 (80%)	268 (85%)
2 短すぎる	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
3 長すぎる	2 (2%)	44 (20%)	46 (15%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



(4) 自身の授業内容および方法の参考となる情報・知見について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とても得ることができた	31 (32%)	59 (27%)	90 (29%)
2 ある程度、得ることができた	58 (60%)	130 (60%)	188 (60%)
3 あまり得られなかった	5 (5%)	28 (13%)	33 (11%)
4 まったく得られなかった	2 (2%)	1 (0%)	3 (1%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



(4) 今後希望される講演テーマについて（複数選択可）

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	121 (39%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	90 (29%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	88 (28%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	88 (28%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	53 (17%)
6 初年次学生の教育支援	51 (17%)
7 配慮が必要な学生の修学支援	97 (31%)
8 キャリア教育・進路指導	60 (19%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・生成についてさらに別の観点から。あるいは同じ講師で最新の状況について。
- ・今回の講演テーマ関連を、もう少し社会に浸透するか進歩して、教育に生かせる時がきたら、事例などを含めて、もう一度開催してほしい。
- ・今回の講演は概論であったので、次回は各論として、特に生成 AI の活用あるいは乱用の大学教育への影響について、より具体的な話を聞いてみたいです。
- ・データサイエンス学部ができることで、全員が知っておくべき事柄については、率先して教えていただきたい。
- ・今回のテーマの関連項目をさらにお伺いしたいと存じます。よろしくお願いします。
- ・生成系 AI については、もう一度講演を望みます。今回は総論的な内容でしたので、使用方法や事例を詳細に紹介していただきたいと思います。AI 技術は、あらゆる産業で急速に発展しています。今回のような否定的な質疑内容のまま終わってしまうと、本学は取り残されてしまうように感じました。今後のデータサイエンス学部の受容や発展についても関係してきそうです。
- ・Chat GPT の使用例として、分野ごとの例を講義していただきたいと思いました。例えば、ある課題に対して学生がどのように Chat GPT を使って作文するのか、語学の授業の将来（翻訳の授業に未来があるのか）など
- ・このような機会はありがたく思います。非常勤講師で参加できる研修が多くなることを期待しています。
- ・ChatGPT というテーマにとっても興味があります。授業や研究に関連した、実践的かつ具体的な使い方の話を聞けたら嬉しいです。
- ・問7でのコメントに記したことから、ChatGPT の授業での適用例などの紹介があるとためになると思われる。
- ・実際に、AI 技術を大学教職員が遊んでみる、手で動かしてみるなどの WS があるとありがたい。既に使いこなしている方も学内でいっしょやるかと思いますが、全く不慣れな者を対象に、参加しやすい WS を企画してもらえるとありがたい。
- ・今後、学ぶという形式が大きく変化する気がしましたので これからも今回のテーマの制度あげて、教育現場での実用的な使用や事例などを紹介して欲しいです。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・タイムリーなテーマを、有り難うございました。
- ・今回の講演者の方は、生成 AI について前向きにとらえていらっしゃるが、それについては賛同しますが、実際生成 AI で出されるコメントやレポートといった、生成 AI の負の影響に対して、教員がどのように対応できるのか、教育系の講師の方から聞ける機会があるとうれしいです。
- ・今回の資料をいただけませんか。せめて、アンケートに回答したら資料をいただけるなどにしてもらえるとありがたいです。ご検討をお願いします。⇒12/19 に録画版と併せて資料を配信しました。

[国の高等教育・教育改革の動向、本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・教育改革の方向性 我が国の教育の立ち位置 大学における初年次教育の在り方 その方策 手だて 評価について
- ・直近で希望する者はありませんが、日本における高等教育の将来像や、日本で進めるべき高等教育の長期的な方向性を考えることができるテーマも必要かと考えています。
- ・学習指導要領が変更になったり、コロナ禍で中学校を過ごしてきた学生が入学してきたりと今までの対応では十分でなくなっていることが多いと思うので、これからの学生募集や教育に活用できる現在の国の中学校の動向を含めた内容が知りたい。
- ・就活生に成績表を提出させる企業が少しずつ増えているようですが、まだまだ社会は学生が大学で何を学んできたかについて特に関心はなく、一部の有識者も大学の存在価値を声高に否定しているようです。それに耳を傾ける賢い若者が増えてくる前に、社会から求められる大学が何をどう教える必要があるのか、アカデミズムより重要な何かを考えるヒントになるようなテーマを希望します。
- ・地域における大学の在り方（市民とのかかわり）

[授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介]

- ・卒業論文の指導方法について。他学部、他学科の指導の仕方を参考にしたいです。

[初年次学生の教育支援]

- ・情報化・データ化が進む社会の中で、科学的・数学的リテラシーは、どのような分野を学ぶ場合でも、ある程度必要になると考えられます。一方、学生をみると、高校で文系というくりに入って、そのようなリテラシーはほとんど身につけないまま本学（大学）に入学しているケースが多いのが現状です。しかし、それらの学生は、科学的・数学的リテラシーを学んでもできない（苦手である）のではなく、単に（きちんと）学んできていないというケースが多いとも感じています。そのため、初年次教育、あるいは課外教育等の形で、大学においても、数学、自然科学などの補習の場、機会を設定するのが望ましいのではないのでしょうか。以前、金沢工大が高校の退職教員などを活用してそのような課外教育をしているという話を聞きました。他大学の取り組み例、あるいは本学での対応の可能性を共有・検討するような場があればよいと考えています。

[配慮が必要な学生の修学支援]

- ・配慮が必要な学生だけでなく、学生全般に対する対応について学びたい。
- ・修学支援：近年、ふたをあけてみたら中学・高校時代から具合が悪かったと申告するケースが散見される。だとすると、高校とのリエゾンが必要になると思うが、そうしたことに既に取り組んでいる先例はあるのだろうか？キャリア教育・進路指導：学部学科ごとに異なるべきだろうか？また、ある学科で何年か学んだあと「このキャリアではない」と悟った学生が進路変更できるパスを学内でつくらなくてよいのだろうか？ということについて、先例や先駆事例があれば学んでみたい。

[その他]

- ・様々な学部で、例えばデザイン思考などを取り入れた場合、アイデアに対してプロトタイプを制作していくことが今後増えるのではないのでしょうか。狭いスペースの中でそのような場所を確保していく方策や、その実際について知りたいです。
- ・アドミッションポリシー。大学全入化の中で「どのような学生をどのように採るのか」この先進事例を知りたいです。
- ・本学の研究体制・支援のあり方
- ・高校の教育および進路指導の動向
- ・今回のように、2024年度に時宜を得た別のテーマにつき、外部専門家の講演がよい

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・私は生成AIについて十分理解していないので、教職員に求められる項目の中にもあったが「AIに対する理解と適用能力」を今後身に着けて活用したいと考える。
- ・具体的に示していただけたことで理解が深まりました。
- ・各スライドが分かりやすく、発声もしっかりされていて論点が良くわかりました。最後の「覚悟」と「わくわく」に非常に共感しました。その通りだと思います。本日のテーマではありませんが、AGIにはさらなる興味を持っています。昨今の事態の進み具合を見ていると「シンギュラリティ」と「わくわく」がダブルで押し付けてくることも、そう遠いことではないような気がします。そして、『自分は何者であるか』と『人間としてその時代を知りたい』の2点をわきまえていれば、そのような時代も乗り越えられる気がしています。本日の内容は今後の学生教育・指導にも役立たせていただきます。どうもありがとうございました。
- ・Chat GPTについて、話題になってはいましたがよく知らなかったので、大変有意義な研修でございました。本学の学生が東大生に比して優秀ではないので使いこなせないという御意見がございましたが、塩崎先生がおっしゃるように、そこは先生方の御教育次第ではと存じますので、学生のために御尽力願えればと存じました。また、AI革命という分岐点にいる事について、ぼんやりとした自覚はありましたが、実際言葉として伺ったインパクトは大きかったです。今後世の中の流れについていくべく、自分自身も使わない、使えないと切り捨てるのではなく、良い点は取り入れて、将来的に使いこなせるように学習していかなければと考えさせられました。このような最先端の技術について、平易な言葉で御説明くださり、講師の塩崎先生にも感謝申し上げます。
- ・生成AIのメリットとデメリットについて再認識しました。ChatGPTはこれからますます情報量が加算され、精度が高くなると思います。これに伴った生成AIも精度が高く、より人の考え方に近づくと思います。よりよく便利に使用したいと思います。一方、フェイクには十分に気を付ける必要がこれからますます増えていくと思います。
- ・AIについて、「覚悟が必要」とのことばが印象に残りました。
- ・AI、生成AI、ChatGPTなど耳にするが、違いが判らなかったが、本日の講演会で違いが見えてきました。しかし、まだ分からないところもあるので、録画映像も再度視聴したいと思います。

- ・生成 AI についての基本的な知識を得ることができた。実践的なプロンプトエンジニアリングの必要性など、検索エンジンの利用方法と通じるものがあつたが、生成 AI を使用時に気をつける点として記憶に残った。また、ハルシネーションについて、実際使ってみると多々遭遇するものであり、学生にも注意を促したい。大学としてのガイドラインの今後について、より検討していく必要を感じた。
- ・Chat GPT に関する最新の知見、たいへん興味深かった。講師の専門性から教育分野における活用は業務の効率化という視点が中心であったが、ChatGPT 使用と学生の思考力や創造性との関連性についてのテーマのFD講演会を今後期待したい。
- ・生成 AI についての基礎的な知識を得ることができ、大変感謝しております。大学教育という点では、全学共通科目ではほぼすべての学生が学んでおいた方がよい知識や技能であると思いました。必修にすると、その単位を取得できず卒業できないという学生が出てきそうな気がしますので、学生に「強く勧める」程度が現実的かとは思います。
- ・生成 AI の凄さ（今回の例でいうと文書精製能力の高さ）や知らないことに対しては知らないと言わず嘘をつく（幻覚）といった課題等、漠然としか知らなかったものをしっかり認識することができた。未来においても、人が得意な事、AI が得意な分野をしっかり認識して共存していくことが大事だという点。
- ・この領域については全く予備知識がなかったが、分かりやすい説明だった。今後、自分で使うことはないであろうことは、明確になった。
- ・授業での活用を考えたいと思います。
- ・生成 AI についての詳しい知識がなかったので、その概要等についてよく理解することができました。ただ、文系学部の教員としては、生成 AI の能力と可能性と同時に、限界と教育現場における不安と疑問の方を改めて強く感じてしまいました。御講演の中で AI の要約、論文執筆、翻訳能力が挙げられていました。これらは本学で課しているレポート、卒論等に使用できるものです。私が担当している語学の授業は原文を日本語に翻訳する事が主な内容ですので、AI を使用すれば、簡単に翻訳文を作成することができてしまいます。つまり、自分の頭で考えなくても、一定にレベルのレポート、論文、翻訳文を完成させることができます。その対策として大学の指針・ガイドラインの作成が考えられますが、それをすべての学生が遵守すること、教員側がすべてをチェックするという事は不可能だと思います。ということで、AI は画期的な技術革新であるということは、おそらくそうであり、そうなるのではないかと思います。正に両刃の剣ではないでしょうか。学生達への倫理教育をどのように浸透・強化していくことができるかということ、それでも考えていかなければならないと思います。
- ・生成 AI の現状について、その概要を理解するためには役に立つ講演だったと思います。
- ・AI 革命への期待と教育側の適応・対応がどのようになって行くかが楽しみであること。
- ・生成 AI も個人に特化させれば、教育の場面でもそれなりに使えるのではないかと考えている（家庭教師のようなイメージ）。このようなツールは貧富の格差を軽減させる方向にも適用されることを望む。
- ・内部の教員の公演であった点、論点が明確である点、大変興味をそそられました。日本は例外的に AI への警戒、拒絶感、規制がない国です。遠からず、教育、労働、趣味、芸術領域でのインパクトがハッキリする地域になるでしょう。
- ・全然知らない分野について、わかりやすい言葉で、理解を促進してくださいました。とりあえず大まかな全体図を理解させていただいた気がします。ただ自分が使いこなせれば大変大きな武器になることを理解しました。最後に倫理面については黒白つけることが困難で、今後問題が増えるのではないかと思います。
- ・とても勉強になりました。
- ・生成 AI について、総合的にわかりやすくなる講演だった。これから急激に発展する領域なので、定期的に動向や利用方法を知りたい。
- ・今、話題の生成 AI について丁寧な説明や問題点、そして今後の使い道や課題まで学ぶことができました。語学とは関係が遠い世界だと思いましたがいろいろ考えることも多くてすごく役に立ちました。ありがとうございます。
- ・業務の 25% が生成 AI によって効率化できるということ。
- ・今後、授業の中で「生成 AI」をどのように活用できるか、分野別に具体的な活用方法や事例があれば聞きたいと思います。
- ・調査や分析上のパートナーとして生成 AI の活用を検討したいと思いました。有益な情報提供、ありがとうございました。
- ・今後の大学教育においては、避けて通れない課題だと認識しています。生成 AI の現在地と未来予想について大変参考になりました。
- ・生成 AI の利用率の向上 入力工夫という考え方
- ・私なりに不透明な点に、問題を整理するの役に立ちました。
- ・興味はあるけどなかなか実体の分からない大規模言語モデルについていろいろな知見が得られ参考になりました。その使用について大学のガイドラインができましたらまた教えていただきたく存じます。
- ・他の AI 関連の講演などと比較して、歴史的な変遷から注意すべき点に至るまで網羅的に準備されていて完成度の高さを感じました。
- ・生成 AI について、よくわかりました。教育への適用ということについて、さらに知りたいと思います。

- ・ちょうど今はシラバスを作成途中なので、学生たちはどういう風に懸命に ChatGPT を使えるように書かなければなりません。ありがとうございました。
- ・生成 AI について分かりやすい説明をして頂き、さらに大学で活用する際に何が求められるのか、何が課題となるのかを示唆して頂き、本当にありがとうございました。少しずつ、IT スキルを磨いて行こうと思いました。
- ・今後は恐らく何らかの使用規制がかかってくると予想したので、その前に今年度初めから、試みに画像生成 AI を使用した卒業研究へ取り組んでみました。当初、学生たちは四苦八苦していましたが、そのうち特に初期段階のアイデア発想をサポートするクリエイティブパートナーという位置づけで AI を使うことが有効であることを見出しました。指導教員としては、これまで本学の学生が不得手としていたデザインスキルを AI が補い、更にスキルアップしていく様子を実感することが出来ました。次年度以降は講演の際にキーワードとして挙げて頂いた、プロンプトエンジニアリングスキルの向上を図りつつ、更に多くの授業課題へ画像生成 AI (Stable Diffusion) を取り入れていこうと思っています。大変、心強い内容のレクチャーを有難うございました。
- ・ChatGPT について気になっていましたので、今回、最前線の講演者の先生から体系的に学ぶ機会が持てて良かったです。全学的な FD 活動は時期的にも時間や内容的にも定着してきた感じがあるので、運営方法等について特に気付いた点や意見などはございません。記憶に残った点といえば、最後の質疑応答で本学の社会学の先生と講演者の先生とのやり取りが記憶に残りました。
- ・生成 AI について今まで利用したことが無く、正直興味もほとんどありませんでした。今回の FD で生成 AI についてある程度理解できた。
- ・生成系 AI は使う方の技量や能力に大きく依存するということが改めて理解できました。少しずつ自分で勉強しながら日々の業務に役立てていきたいと思いました。
- ・12/23 社会情報学部 FD 研究会でも生成 AI のリスクや規制について検討する予定であり、開発・推進サイドの話は大変参考になりました。
- ・講演者の方にまずはお礼申し上げます。普段は単に質問するだけの利用なので、個人的には画像生成やデータ分析、その他、想定外の使用法の具体的な生成結果が知りたかったです。
- ・生成 AI について一般的な内容であったが、整理されわかりやすかった。
- ・生成 AI は「高度な道具」であるので、普及してくることは間違いなく、しっかりと「長所と短所を具体的に経験させる必要がある」と感じました。 便利な自動車が作られたことにより、歩くことが減って体が弱るように、生成 AI を使うことで「自分で調べ、考え、経験することが身に付かない、衰える」ことは当然です。「現在の学生は自分の頭で考えず、調べず、経験することが身につけていない」ため、生成 AI に頼り、振り回されるようになる可能性が高いと感じます。現在の「大学では自分で調べ、考え、経験させることをうまく育てられているとは言えない」ため、この点に力を入れて改善していく必要があると感じました。
- ・AI、生成 AI、ChatGPT などまさに「今」の解説をしていただきよくわかりました。時代の進みが非常に早い昨今、このような話題を取り上げていただくことはありがたいです。
- ・AI の本来の仕組みを確認したうえで、従来 AI と生成 AI の違いが明確に整理されていたので、全体的にとっても理解しやすかったです。昨年話題になったときは、自分自身の生活圏から少し離れたところで祭りが自然発生しているような印象でとらえておりましたが、実はそれぞれの生活に非常に近いところで高速で発展を遂げている印象へと、ここ数ヶ月で変化したように思います。本日の講演をおききしたことで、より身近に感じられたように思いました。学問もそうですが、やはり人間が感じる「ワクワク感」は大切ですね。そのうえで、人間が現実的に吟味していく段階に入っているのだなと思いました。学生が、そして我々教員も使うことを前提としつつ、今後教育者として彼らとこの体験をどう分かち合い、どのように教育に役立てていくのか、チャレンジしてみたいと思います。ありがとうございました。
- ・ChatGpt とどう折り合いをつけるのが、今後の大きな課題になるようだ。特に卒論などの重要な局面で ChatGpt 悪用をどう抑制するべきかをよく考えなければならない。
- ・いつもお世話になっております。避けては通れない AI の対応ですが、黎明期に学習に取り入れるのはなかなか敷居を高く感じています。 いい使い道に、学生の助けになるように積極的に利用できればと思います。
- ・本学では専門科目を担当していますが、他校では語学科目を担当しています。雇用形態は非常勤ですので、余計に気になるのですが、将来、生成 AI のために職を失う可能性があるのではないかと心配です。それについて、どのような見解をお持ちでしょうか。たとえば、先日テレビで生成 AI のために、コピーライターの方が職を失っていました。
- ・自分が行っている授業の実施に直接役立つかといえば、そうではなかった。とはいえ、大学で行われる講演としてはとてもふさわしい講演であったと感謝している。講演では、そもそもの成り立ちや仕組み等についての説明がとてもしっかりとしていたので、ChatGPT とは何かといった基本についてしっかりと学ぶことができた。講演内容をどのように自らの授業に役立たせていくかは、個々の教員によって異なるだろうから、これについては改めて「授業の場で」といった回を設けていただくととてもありがたい。
- ・ビジネス現場や一般論の話として勉強になったが、教育業界としてももう少し踏み込んだ事例や使い方を示してもらえると良かったと思った。
- ・ChatGPT の現状について理解できていない点が多々ありましたので、良い機会となりました。

- ・企業での活用と、教育現場や研究での活用というのは少し状況が異なるようにも思いますが、何ができて何ができないのか、とても分かりやすく解説してくれていたのが勉強になりました。私が見落としただけなのかもしれませんが、ミーティング情報のお知らせと一緒に、ご講演のレジュメ等配布資料の有無の情報を記載いただけるよいなと思いました。⇒次回以降、配布資料についても事前にお知らせいたします。
- ・仕組から始まり、具体性のあるご講義で大変わかりやすかったです。
- ・非常に専門的な内容であったが、理解することができた。今後、授業でも導入していきたい、と思わせるきっかけとなった。
- ・教職員に求められることは、高度な知識ではなく、AIを理解し業務に適用する能力。①データリテラシー、②AIに対する理解と適用能力、③リスクの把握と周知、④エンジニアリング能力、⑤継続的なキャッチアップ。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・個人情報などのリスク管理については、SNSと同じく、個人情報などの漏洩に気を付けるべきであるという点がわかった。学生たちも、個人情報には敏感なので、使うことを禁止するのではなく、使ううえでの注意点を共有すべきだと感じた。
- ・今回のFDで生成AIをテーマとしたことは時宜にかなったもので、門外漢の私には大変有益でした。生成AIの利用にあたっては、その「能力」と「限界」を理解する必要があるというご指摘が納得して理解できる内容になっていました。有難うございました。
- ・生成AIを敬遠していましたが、利用する必要性を痛感しました。著作権に触れてしまうかのチェックが難しいのでは、と感じました。
- ・生成AIはもはやインターネットのような当たり前のものである、学生にワクワク感を伝える、といった点は自分の中になかったもので、記憶に残りました。また考えさせられました。
- ・とてもわかりやすく、最近の状況が理解できました。
- ・ChatGPTに関してまとまった話を聞く機会が今までありませんでしたが、この講演を拝聴して新しい時代がまさに到来しつつあることを実感しました。ちょうどPCが一般的になって、身の回りに「パソコン」が増えていった40年ほど前を思い出すかのようです。人間と教育に関して新しい課題が突きつけられていると思いました。
- ・教材の活用等で視点を得るのに役立ちそうかと思われた。ただ、学生の使用についてはやはりまだ検討すべきことが多そうな印象だった。
- ・特に、スライド35ページに生成AIが使える場面、つかえない場面が整理されていて興味深かった
- ・生成AIについて、もっと関心をもって考えていくべきであると感じた。
- ・学生対応により、入室が30分遅れてしまいました。できたら後日、改めて視聴させていただきたいです。
- ・生成AIとの付き合い方として、他学の声明、方針が紹介されましたが、参考になりました。どのようにして付き合うかの方向性積極的な利用方法を見出すこと、ということが重要とおもいます。実際に利用していますが、利用しなければ付き合い方もわからないのは、人との付き合い方を見出すことと同じ、とあらためておもいました。
- ・今まで、自分のアカウントを作ることが怖かったのですが、今回の講習会を受けて、作る決心ができました。おかげで、些細なことを試してみることができました。また、想定できる学生のChatGPTの使用、我々が使えるだろうと思われる例を伺い、大学の教育内での使用は、教員側がある特定の能力を使えるか否かによって来るのだということが分かった。もしかしたら、学生が大いにChatGPTを使ってしまえる環境は、教員の出題力に拠るのではないかと思った。
- ・国際的な比較から日本のAIの活用が今後発展していく可能性が考えられた。またリスクなども改めて理解することができた。実際に各学部や学科などでどのようにAIに対応していくか、現在の小学生以降のAIを取り入れた教育と大学との連携をどうするかなど、知ることができればさらに良かった。
- ・このような機会があったこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・学生の皆さんと教職員も一緒に学び、使いこなせるようにしていければと考えております。
- ・非常勤講師として本学では広告論を担当している関係で、生成AIが活用できる可能性が高い分野として「広告コピーライティング」が挙げられていたり、活用事例として「カフェ」の「店長挨拶文」や「ロゴマーク」画像生成などの例が取り上げられ、とても身近な感じがした。実は本務校では、インターネットやソーシャルメディアなどを含む「先端メディアテクノロジー」の科目も担当しており、まさに「第三次AIブーム」と「生成AI」の論点、最新情報の紹介を昨年前期から始めたところだ。現在さまざまな大学・教育機関の「利用ガイドライン」を収集して本務校の「ガイドライン」検討修正などを行っており、大変に参考になるFD研修会でした。
- ・大学教育でChatGPTをどのように扱っていくかという問題は、著作権の問題などを含めて重要であることが再認識されました。積極的に利用していくような方針を取るのか、制約を加えるのかを含めて今後検討していかなければならないと思います。たとえば、レポートや実習報告書などの作成に当たって、ChatGPTを使えば、昔危惧されたようなネットのコピペ以上のスピードで、たちどころに提出物が出来上がってしまいます。より完成された提出物を作るにはAIをどう活用すればよいかという方向で指導するのか、AIにたよらず自分の頭で考えるのが重要であるという方向で指導するのか、引き続き課題として残り続けるのではないかと思います。
- ・今回生成AIの基本とChatGPTの経緯について大変わかりやすく説明していただいたので、利用していく際の注意点なども理解できたことで、実際に無料のサイトでの試用を試みようと思えた。ただし、変化が激しい状況だと思えたので、お忙しいとは思いますが、数カ月後くらいに状況の説明をお聞きしたいと思いました。

- ・生成AIの説明の際、それまでのAIと比較したことで、初めてその特徴がよく理解できた気がします。また、具体例やわかりやすい図や表を用いた説明により、活用方法や問題点などを知ることが出来ました。学生さんにも、しっかりとリスクを意識した上での活用を促したいと思いました。
- ・生成AIの活用実態と課題の把握に役立ち、自身の授業や研究への活用場面について考えるきっかけを得ることができました。ありがとうございました。
- ・生成AIのリスクと課題について理解できました。教育の場面では、指示をする学生を育てることになると思いますが、心配なことはその指示が不十分で出来上がった文脈に、学生がこれでよいと思った場合です。生み出すことのできるAIではなく人を育てたいのですが、課題を多く感じました。興味深いお話をありがとうございました。
- ・ChatGPTが自分自身にどのように関わるのか、あまり考えていなかったが、講演を伺って、リスクやどのように利用するのか、など、現在のこの技術の課題なども含めて整理してお話いただき、認識を新たにしました。ニュース等ではよく目にするようになったが、背景やこれまでの経緯、現状など、漠然としか知らなかったことを、わかりやすく説明いただき、具体的に把握することができたと思っている。貴重な機会をいただき、感謝です。
- ・生成AIに関する基本的な知識をわかりやすく講演していただき、大変興味深く拝聴しました。自分でどのくらい新たなAIと付き合っていけるかは、正直未知数なところがありますが、ブラッシュアップに努めたいと思います。論点整理や仮説構築は得意だが、現状把握や最終決定は人がしていかなければならないことを改めて認識できました。ありがとうございました。
- ・Chat GPT、生成AIの使用できる範囲が分かったことが、良かったです。生成AIが経営不振の改善の戦略までアイデアを出せるとは、コンサル業務まで出来ていまして、驚きました。個人的には、一昨日も、大学生が、あるテーマの作文の課題が出されて、数秒でChat GPTで作成して、多少の加筆をしたのち、提出しているのを、目の当たりにしていますので、生成AIの利用は避けられないものと感じております。
- ・今までAIや生成系AIについて十分に学ぶ機会が無かったので、とても参考になる情報を頂けたと感じています。基本的な仕組みについては、もう少し詳細な説明があれば、より理解が進んだと思われます。また、授業や自らの研究での利用については、授業担当者の責任の範囲だけで枠組みを設定して良いものかどうか、今後の判断に迷う部分もあるように感じました。自身でもより理解を深め、効率的な利用方法や管理手法を考えるよう努力いたします。今回は、本当にありがとうございました。
- ・注目していた内容でした。現実問題として、レポートなどの課題で同じ記載分を目にすることもあり、個々に判断していくしかないと感じています。
- ・講師の方がおっしゃっていた、生成AIと上手に付き合っていける学生を育てるという観点が印象に残りました。
- ・日本文学という研究分野の特性上、直接授業の参考になる点は少なかったものの、ChatGPTやAIについてはほとんど知識がなかったので、たいへん勉強になった。
- ・塩崎さまの「インターネットが当初は一部の人にしか使われなかったが今となってはほぼすべての人が当然のように使っているのと同じように、AIもいずれはほぼすべての人が使うようになるので、AIをうまく使えるようになる人に教育するのも大学の仕事の1つ」という意見には賛成です。他方で、干川先生の「本学の学生には使いこなせなさそう。格差が広がる」という意見にも同意します。数年前から1,2年ゼミで『AIにできること、できないことービジネス社会を生きていくための4つの力』という本を輪読し、(第3次ブームまでですが)AIの仕組みの概略、利点、欠点を学んでもらっているのですが、特にここ1,2年の学生はこの本の中身を半分以上理解できている人はほとんどいません。なので、もうやめようかなと思っています。難しいですね…。
- ・学生と一緒にワクワクを共有しようというコメントが印象に残りました。私自身が生成AIについて、未学習の部分が多いので、まずは私が学び授業に還元できたらと思います。
- ・生成AIが得意なこと、苦手なこと、利用する際の注意点が分かって良かった。
- ・従来のAIと、生成系AIの違いなど、知らなかった知識を教えていただけて大変参考になりました。
- ・改めてAIの有効性と限界について考える良い機会となりました。AIはこれからも進化することを前提に、「人間が考えなければいけないこと、しなければならないこと」を学生と共に考えたいと思います。
- ・ものすごく容易に生成AIを利用できることがわかった。またクエリーにもよると思うが、回答もあからさまな違和感を感じない。となると、生成AIの利用の有無の判定、著作権の問題、偽情報の問題等が今後ますます重要になってくると思う。
- ・本学にもAIを専門にされている先生が多数いらっしゃいますので、講師とのパネルディスカッション等で話題を深めても面白かったと思います。
- ・最終的には、人間の判断が求められること、特性を理解して利用すること、特性に合わせて利用方法を人間が考えることが必要であることを認識できました。本学においてもガイドラインを作成し、学生に周知すること大切であると考えます。
- ・AIには、ハルシネーションという課題があるということ。AIを活用するには、プロンプトエンジニアリングの成熟度という課題が使用する側にあること。
- ・生成AIのリスクと課題、能力と限界を理解する上でたいへん有益でした。特にデータバイアスの問題は興味深く、デジタル・エンジニアの約8割は男性が占めていることから、男性の論理や価値観に偏った形で技術開発が進み、ジェンダー・バイアスの助長が懸念されます。とはいえ、chatGPTをはじめ、AIはデジタルアシスタント

- として日常生活に浸透しつつあり、あらゆる業種やビジネスシーンで活用されていますので、教育分野における活用は時代の要請であると考えます。ただし、塩崎様もご説明されていたように、法規制が未整備なため、人工知能学会や大学独自のガイドラインに沿った活用が求められるでしょう。併せて、著作権や有害コンテンツ等の問題を学生と共有し、ChatGPT など生成 AI のトレンドを把握しながら、授業に取り入れていきたいと思います。
- ・生成 AI の活用については社会的・倫理的等の観点から議論すべき点が多く残されているものの、そうした問題点を踏まえた上でうまく使えば新しいものを生み出しうる、そのような可能性と「ワクワク感」をととても強く感じました。
 - ・生成 AI について基本的なところがよく理解できました。主にビジネス的な部分で業務に活用する方法も一定程度知ることができたと思います。前半の1〜3の部分や、具体的な活用方法について、学生向けの授業や講演会、ワークショップなどを企画することで、学生と共有できる機会が提供できると良いなと思いました。
 - ・ChatGPT についてあまり詳しく知らなかったが、どのようなものかということがよくわかって参考になった。講師も言われていたが、まだまだ信用できない部分がありそうなので、全面的に頼るのではなく、参考程度に ChatGPT を使用してみたいと思った。
 - ・AI は、「こころ」があるわけではなく、あくまでも数値・データ上の確率論で出している。また、偏ったデータしかない場合を含めて「うそ」をついてしまう。我々使用者のリテラシーが求められるという点は、非常に得心がいました。また、学術レベルでの活用には、まだまだ耐えられるわけではなく、学生への指導の在り方も、現状を理解させることが求められるのだと感じました。
 - ・2020 年に急に生成 AI に関する話題が多くなった理由や背景がわかり、どのように向き合ったらよいかを考えるうえでの基本事項を知るよい機会となりました。講師の先生は、来るべき「AI 革命」として、産業革命、情報革命と並べて捉えておられる立場から、教育現場に対して、こんな時代に教えられるというワクワク感をもってもらえたら、というメッセージが印象的でした。リスク面をただ恐れるだけでなく、リテラシーを高めることが重要という考えが深まりました。
 - ・AI のメリット、デメリットを理解しながら、いかに授業や研究に活用していくべきかについて、とても勉強になりました。有難うございます。
 - ・非常にわかりやすい講演で、勉強になりました。本務の大学や所属する学会などでも話題になっている内容でしたので、大変勉強になりました。後日録画で視聴できるようにして下さりありがとうございました。
 - ・「なんとなく」わかっている内容について、詳細に提示していただき、知識の確認や整理につながる大変いい内容であった。なんでもマイナス面に着目して活用を中止するという視点ではなく、大学としてどのように使っていくのがよいのかを考える際にも、教育に携わる全体がきちんと状況や内容を把握して考えていくことが必要であると改めて感じた。ありがとうございました。
 - ・生成系 AI に関するレビューにより、知識を再整理し、自身の認識を再確認することができました。
 - ・ChatGPT をうまく使えば自分のオリジナリティへつなげることができる、ということは勿論あるのかとは思いますが、それにしても、たとえば「ハルシネーションを見せる」という問題点についてお話しされているなかで出てきた具体例の、「野村総合研究所の創業年月日について聞くと間違った答えを返してくる」などについては、これが人間が相手なら「どこを見て得た情報なの？」と問うことができるのに、AI が相手だと「どうしてこう思ったの？」「何を讀んだの？」と問うこともできないというのは何とというか、誰に何の責任があるのかがどんどん不明瞭になっていくようで、凄い時代だなと思いました。
 - ・生成 AI の概要を知ることができた。とても有意義だった。
 - ・使用の際の課題や留意点がよくわかった。旧来の価値観から否定するよりは、社会の変化として見据えて効果的に活用できる方法を考えていきたい。
 - ・ブラックボックス問題や著作権問題など以前から気になっていた AI の課題について確かめられたのでよかった。
 - ・AI 技術の進歩状況や便利さという点についてはよく理解できた。ただ、ここからさらに AI 技術が進んでいくことを考えた場合、その技術が担うであろう作業を地道に行ってきた（いる）人間の存在意義とはどうなってしまうのかと、ふと恐怖を感じた。「人間は考える葦である」とどこかの哲学者が言ったそうだが、その言葉を大事にしたいと改めて思うそんな講演であった。
 - ・AI と生成 AI の違いについて、分かりやすい説明を受け理解につながった。今後学生が生成 AI を活用しレポートや論文を作成してくることが大いにあると考えられる。大学のガイドラインに従い倫理的にも節度ある活用を期待したい。成績評価等につながるレポート課題については、生成 AI で解決できない内容について今後検討し、学生が自律的に考えられるよう工夫したい。
 - ・どの領域の何を生成 AI と協働するかを考えなくてはならないように思った。
 - ・これまであいまいであったことがよくわかりました。最近手塚治虫のマンガを生成 AI で作ったというニュースを見て得た情報と今回ご教授いただいたことがつながり、できることや課題についてとてもよくわかりました。共同研究者は、ChatGPT や Bard を活用しているようですが、それらをどのように活用するのがよくわからない点です。また、インターネットの検索もそうですが、インプットのコツをつかむのが難しいと感じています。それでも、最新の情報をご教示いただきとても勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・大学における研究、教育における活用については、さらに進展するようになると思う。すでにソフトに生成 AI が組み込まれてしまうようになる。

- ・AI に関しては講師の方がおっしゃる通り、日々更新されているので、半年に1度ぐらいこのような公演があると嬉しいです。また、単に文章による質問だけでなく、絵を描く、音楽を作成するなど様々なことが可能になってきているので、分かりやすい例で紹介していただくとありがたいです。
- ・これまで曖昧だったことが、良くわかりました。
- ・メリット、デメリットが明確になり、今後、更に進化していく中で、役立つように思います。また、今後の対応も、し易くなりました。
- ・生成AIを取り巻く現在の状況については理解が深まったが、肝心の「教育現場への応用可能性」とか「使用上の留意点」といった問題については踏み込みが浅く、未消化のまま終わってしまった感がある。しかし、AIの示す回答の中に既存の著作物が含まれていて著作権侵害を構成するリスクがあることや、入力時に適切な指示・命令を与えないと有用な回答が得られないといった事柄は、今後の学生の卒論指導等においておおいに参考になる知見であった。
- ・生成AIの大学教育での利用について、より具体的なガイドラインを本学学生に作成する時期に来ている。生成AIの弱点は教育利用を考えると時のポイントである。
- ・お話を伺って、やはり新たなリテラシーが求められているのだと感じた。
- ・問題の絞り込みについて生成AIが活用できる範囲がありそうですので、卒論のテーマ決めや助言などに役立てることができるかもしれません。いずれにせよ、教職員・学生問わず、個人情報の流出にもっとも気をつけなくてはいけないものと思います。この点は私自身も気かけるとともに、授業を通じて学生に周知したいです。
- ・生成AIは「わからない」がないため嘘を教えるという点が特に興味深く、AIと正確さとは単純なイコール関係にはならないのだろうと感じた。就活や卒業論文、様々な場面で生成AIを使用した例を聞くことが増えた今、メリットもデメリットも含めて、生成AIとの向き合い方について今一度考えさせられる講演だった。わからないことを恐れずに「楽しむ」という姿勢で生成AIを利用できるよう学びたい。
- ・Chat GPTに関して基本的な情報から、教育現場での活用における注意点をコンパクトにまとめて解説してくださっており、わかりやすかったです。
- ・わかりやすいお話だった。生成AI等については多様な媒体で多様な論者や研究所、企業等が発信しているため、要点を再認識することができた。
- ・タイムリーなテーマであり、素人にもわかりやすい構成と説明で、大変参考になりました。生成AIの特徴、メリットとリスク、得手不得手等が理解でき、今後に活かせる内容だったと思います。「ワクワク感」が「覚悟」を上回るようにしなければと思いました。
- ・知りたかったことを学べたと思います。有難うございました。
- ・勉強になりました。
- ・生成AIの活用
- ・既知の内容が多かったが、問題点等整理することができた。
- ・生成AIの基本的な部分が学べてよかった。
- ・情報が古いと感じた
- ・まずは全体像を把握することができたのはよかった。学院としてどう取り組むのか、教員任せの印象も受けた。
- ・ChatGPTとビジネスのお話がメインで、大学教育研究との関わりについてのお話が少なく、その点において参考になるところが少なかった。講演の最後のほうで、今後も進歩を続ける生成AI技術革新の情報に追いついていかなければならないが、個人では難しいので大学の部署として対応するのが望ましいというようなお話があったのが印象的であった。メディア教育センターなどにおける組織的な対応が望まれる。当方が知らないだけで実はすでにあるのかもしれないが、まずは他大学同様、大学として生成AIの利用の方針やルールを明文化して学生に示す必要があるように思う。FD講習会全般に言えることかもしれないが、個々の教員の知識獲得(更新)および意識向上だけで終わってしまうのでは、教育改善のための取り組みとしては片手落ちだろう。組織としての取り組み・対応にもつなげていただければありがたい。
- ・生成AIとは何か、AIの進化の過程とビジネス一般におけるの使われ方や浸透度などがよくわかりました。教育分野でのより具体的な活用方法や効果的な使い方を中心に内容が知れるととても良いと感じました。
- ・すでに知っていることではありましたが、これからの自身の向き合い方について、再度考える機会となりました。ただ、教育における方向性はますます暗中模索といった状況で、その方策について何かしら具体的なヒントがあると有難かったと思った次第です。
- ・生成AIについての概要はよく理解できたが、詳細な使用方法(入力の工夫の仕方やChat-GTP以外のプラットフォームの使用例など)があるととても有益だった。
- ・昨今、今回のテーマに関する情報はテレビなどでもかなり扱われるようになり、多くの方はある程度の知識はすでに持っていると思われます。大学教員向けの、より踏み込んだ内容であれば、さらに良かったと思います。
- ・私が生成AIの進歩で危惧していることは学生の評価を出す場合にレポート提出という手段が今後使えなくなるのではないかという事です。以前にはHPのコピーを貼り付けたレポートが多いという議論はありましたが生成AIが作った文章を自分のレポートとして提出してきた場合はどのように見破ることができるのかという点です。今後の学生の成績評価についての提案が伺いたかったです。

- ・大学での利用状況や学生の不適切な使い方に対する対策についての事例などについて、もう少し紹介して頂けると良かった。
- ・とても丁寧に細かいところまで説明していただいたので、AI というものに無知な自分でも理解はできた。だが今回期待していたのは、具体的に大学の教育現場でどのように昨今学生や教員が AI を使い、また具体的にどんな問題があるのかを 知りたいと思っていたので、それが後半に設定されており、かつ大方想像内のことであったので、より現実的な事例を知れると良かった。
- ・特にないが、一般論すぎた。
- ・授業に反映する具体例の提示がなかったのは残念。今回の企画を FD 講演会で取り上げた趣旨が不明瞭。
- ・生成 AI に関しての最新の情報と知見を得ることができた。しかし、生成 AI のリスクについて、特に社会全般への悪影響（自律的殺人兵器の開発・実用化、偽情報、ディープフェイクの拡散による社会の混乱等）についても扱い、それに対して、国連や EU がどのように対処しているかについても触れてほしかった。
- ・著作権に抵触するので注意すべきであることはわかるが、具体的にどうすればそれを知ることができるのかを知りたかった。それがわからず残念。内容に誤謬があるかを知る方法も同様。専門家でなければ分からないことが多い。学生は生成物が正しい内容なのかを判断することが困難。講師の最後のコメントはよかった。この転換点に教育をすることを楽しんでほしい。いい言葉です。
- ・「ChatGPT とビジネス・大学教育研究～AI の発展に伴う課題と対応～」というタイトルから、ChatGPT の大学教育研究における「課題」と「対応」についての具体的なお話を期待していました。
- ・今回の講演についてではないが、今回の講演を聞いてもなお、chatGPT との付き合い方、学生との付き合い方について具体的なイメージは描けなかった。
- ・ウソを付くことがある,, 著作権に注意する必要がある, 秘匿すべき情報を入れてはいけないのが 3 つが、利用の際の留意点だと考えるが、最後の項目が、「留意点のついで」に出てきたのは意外だった。
- ・生成 Ai について体系的な話を伺う機会が多いですが、なぜかみな同じようなストーリー、組み立て、結論です。(今回のお話が悪いと言っているのではなく、皆有益なのですが同じような話、という意味ですので誤解なく) 私自身は第二次 AI ブームの時に学生時代を過ごしました。学生時代に履修した「情報処理概論」でこれからの時代は AI だと習いましたが、ブームは過ぎてしまいました。一方、これからの読み書きそろばん(リテラシー)は英語とコンピューター(当時はマイコンと言っていました)とも言われました。後者(英語とコンピューター)はその通りであると思います。これまでの AI がなぜ「ブーム」で終わってしまったのか、そここのところを聞いてみたかったです。(当日は所用があり、動画で視聴です)
- ・難しいことを平易簡潔に述べること、そしてそれが科学的な正しさをかなりの程度保つように話すことは、こうした話をするときの専門家としての基本だと思います。特に私たちが相手にするのは社会で生きる普通の人・ご家庭が育てた学生です。社会や素人と対話しなくてはならないので、もっと平易におもしろく話していただけるとよかったです。それがあまり見られなかったこと、そうした人を招聘したという事実は、データサイエンス系の教育(学部学科)にやや不安を覚えるものでした。
- ・詳細な内容でしたが、話が雑駁でプレゼンがあまり上手とは言えませんでした。昨年の学会で、東大の松尾豊先生の chatGPT に関する講演を聴講しましたが、もう少しわかりやすかったです。大学での FD 講演は、企業の方よりも大学の方が望ましいように思います。残念ながら、最初に質問された本学の先生の内容も、講演内容の意図するところとはあまり関係のないものになっていました。生成系 AI は、ホワイトカラーのパラダイムシフトが起きるような大きな発明です。車と同じで使い方を誤れば危険ですが、法的に規制すれば(演者はガイドラインと言っていました)、便利なものだと思います。安全な使い方をすれば、これからの社会の発展に大きく寄与すると思いますので、一律に使用を禁止しない方が良く考えます。このテーマは重要ですので、多角的な視点で何回か行って欲しいと思います。
- ・こちらの勉強不足かと思われるが、もう少し初歩的なフォローがあっても良かったように思います。受講する全員が何かしらで情報系に関わっているというわけではないので。
- ・自分の中で、まだチャット GTP が把握できておらず、日常的ではない(意識していないだけ?) ので、ツボをつかみにくかった。

以 上